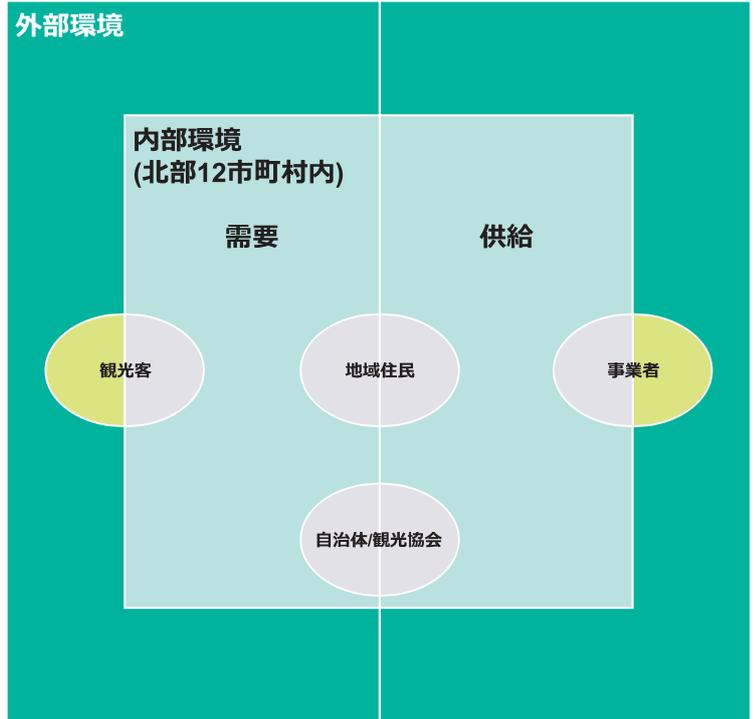


資料 1 沖縄観光の環境変化



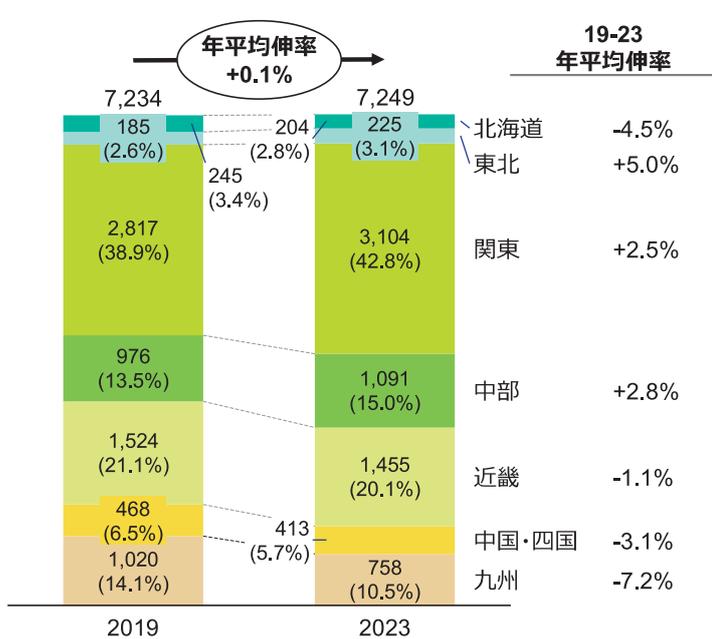
資料 1 沖縄観光の環境変化 1-1 需要面の変化

沖縄県への国内観光客の居住地と月別入域者数の変化

国内観光客数はコロナ禍以前とほぼ同等規模に回復しており、東北、関東、中部を中心に増加。月別に見ると、1月・8月を除き通年通じて回復している

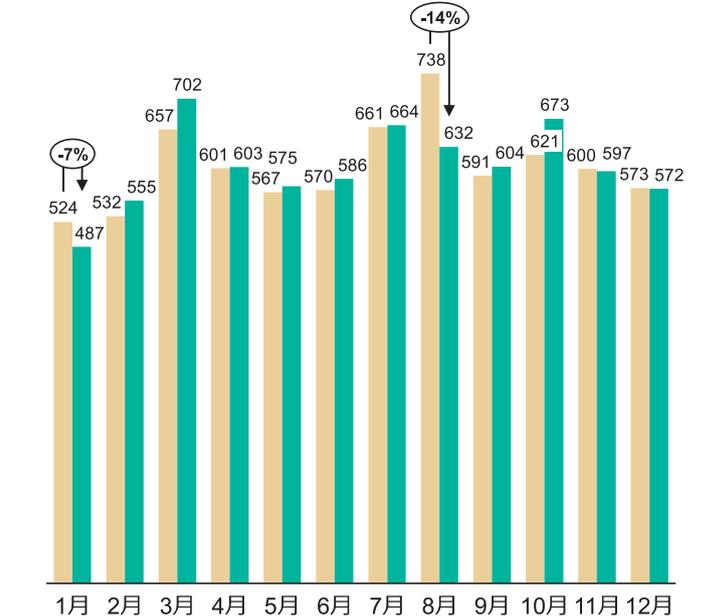
沖縄県への居住地別国内観光客数（19年v23年）

単位：千人



沖縄県への月別国内観光客数（19年v23年）

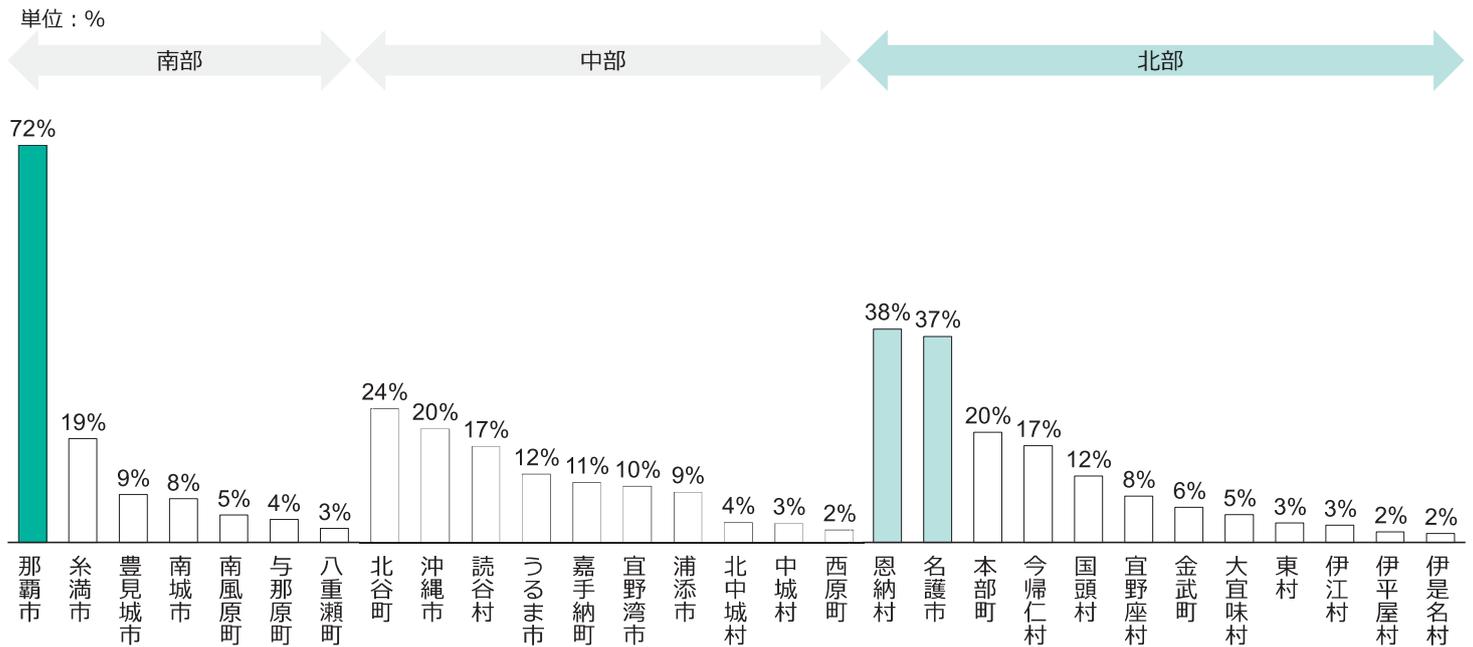
単位：千人



出所：沖縄県「観光統計実態調査報告書（平成30年度、令和元年度、令和4年度、令和5年度）」、「入域観光客概況（令和5年度）」より作成

沖縄県への国内観光客の市町村別訪問割合

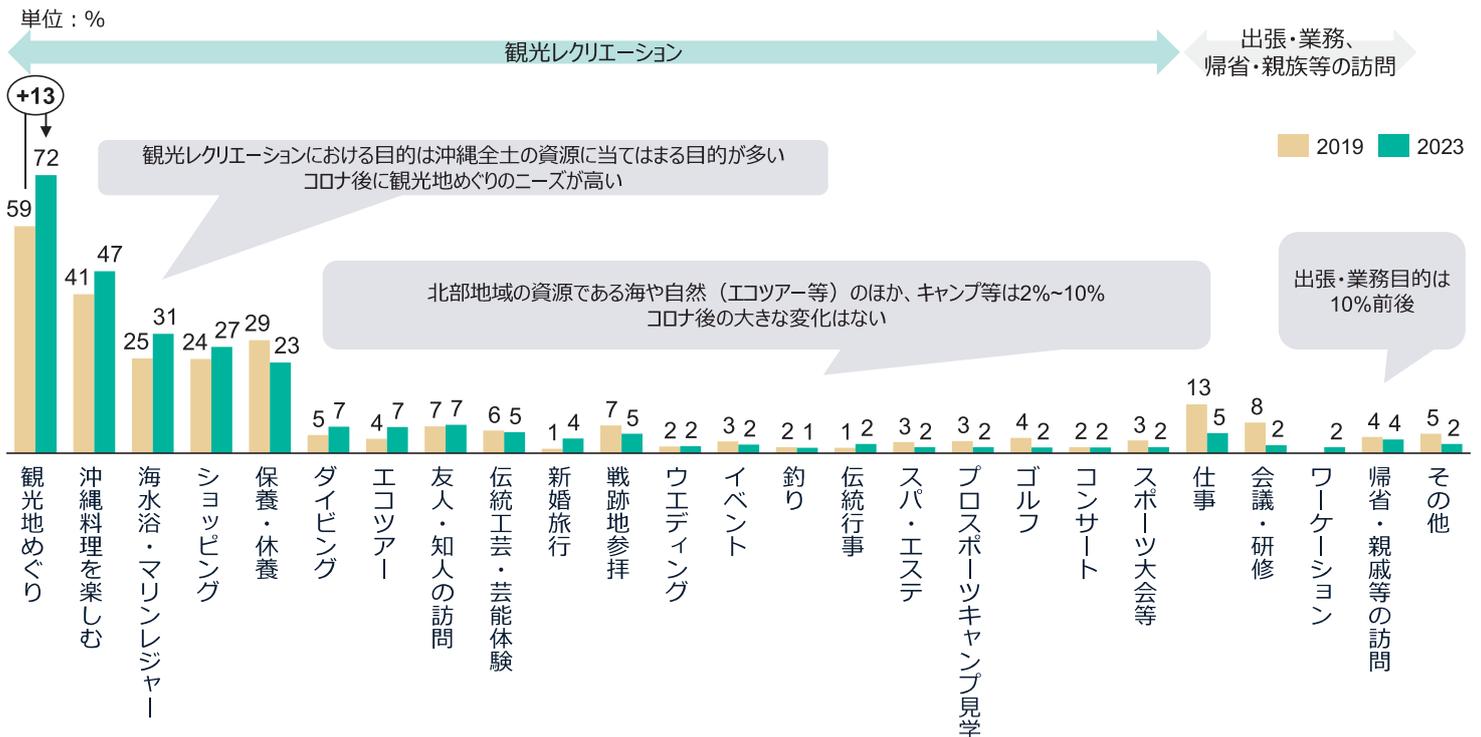
市町村別訪問先割合では南部の那覇市が72%と最も高く、北部の恩納村と名護市が続く。北部の中でも訪問割合の高い市町村と低い市町村で差が開いている



*複数回答となる
出所：アンケート調査より作成

沖縄県への国内観光客の旅行目的の変化

出張・業務、帰省・親族等の訪問は10%未満であり、残りは観光レクリエーション目的となる。観光レクリエーションの中でも、観光地めぐりや沖縄料理を楽しむ、海水浴・マリトレジャー、保養・休養の目的が高い。一方で北部地域の資源性と沿う目的は2%~10%程度



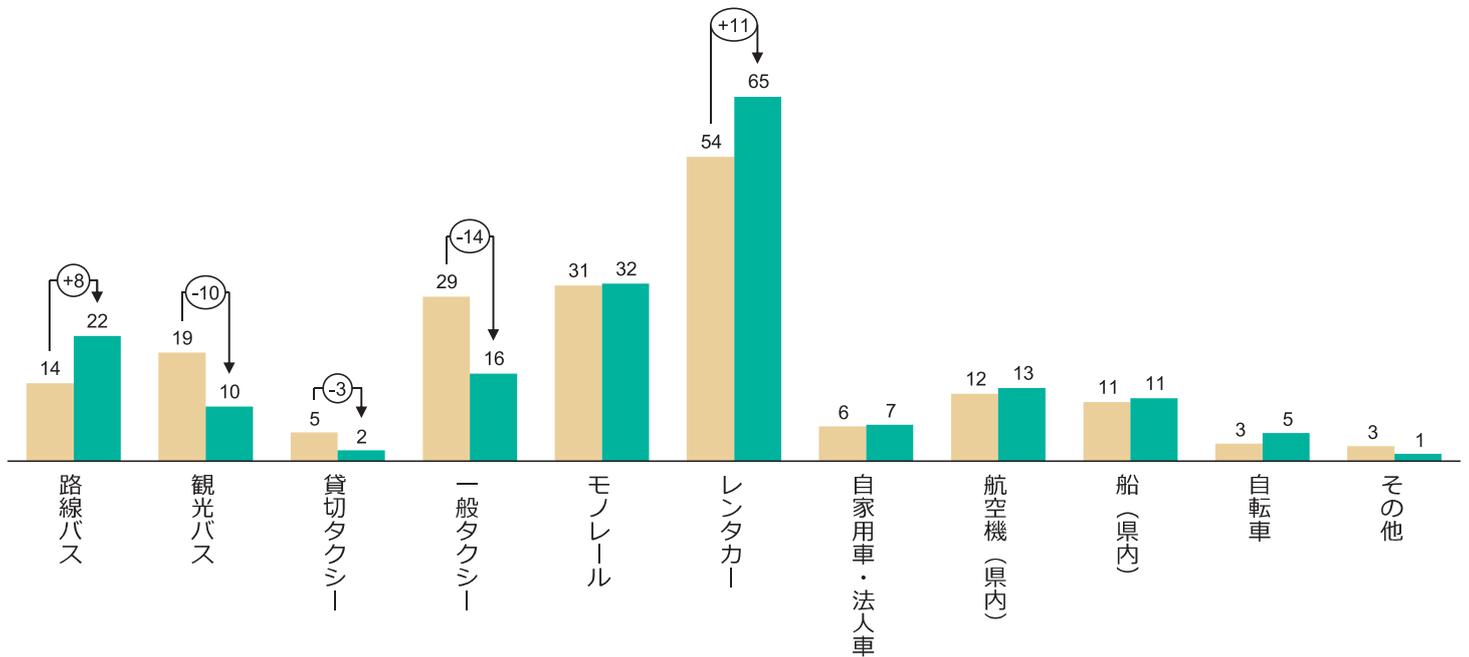
*複数回答となる
出所：沖縄県「観光統計実態調査報告書（令和30年度、令和元年度、令和4年度、令和5年度）」より作成

沖縄県への国内観光客の県内移動方法の変化

国内観光客の移動方法ではコロナ禍以前よりもタクシーの割合が減少した一方で、レンタカーや路線バスの割合が増加している

単位：％

2019 2023

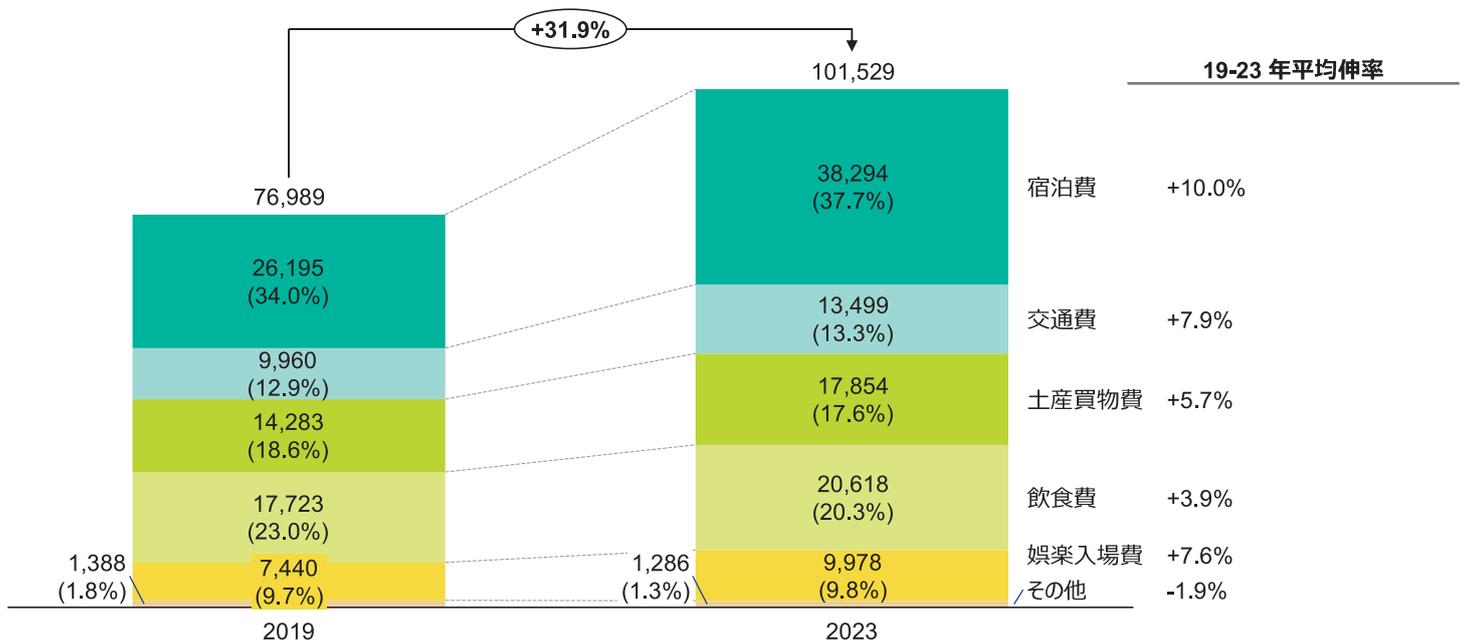


*複数回答となる
出所：沖縄県「観光統計実態調査報告書（令和30年度、令和元年度、令和4年度、令和5年度）」より作成

沖縄県への国内観光客の消費額の変化

国内観光客の県内消費額は、割合に変化はないもののコロナ禍以前と比較して全体的に上昇している

単位：円



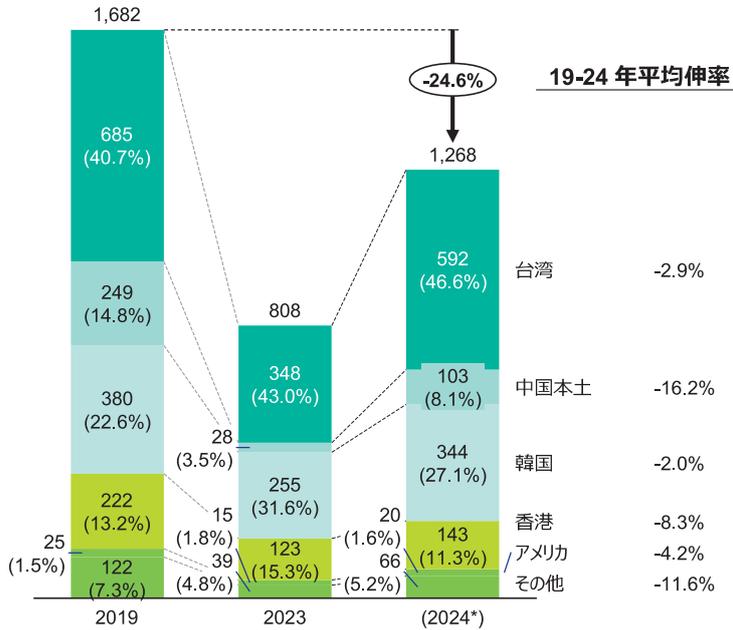
*複数回答となる
出所：沖縄県「観光統計実態調査報告書（令和元年度、令和5年度）」より作成

沖縄県への海外観光客（空路*）の居住地と月別入域者数の変化

コロナ以前と比較すると2024年に空路で沖縄を訪れた外国人は約25%減少したと推測され、特に中国本土からの訪問者が減少している。月別の動向をみると後半月ほど入域数が増加していることから、現在は回復の途上にある

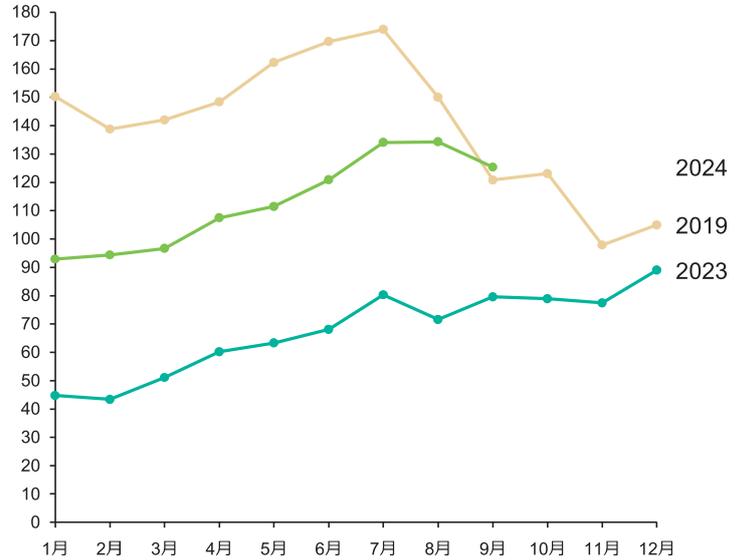
居住地別海外観光客（空路）数（19年v23年v24年）

単位：千人



月別海外観光客（空路）数（19年v23年v24年）

単位：千人

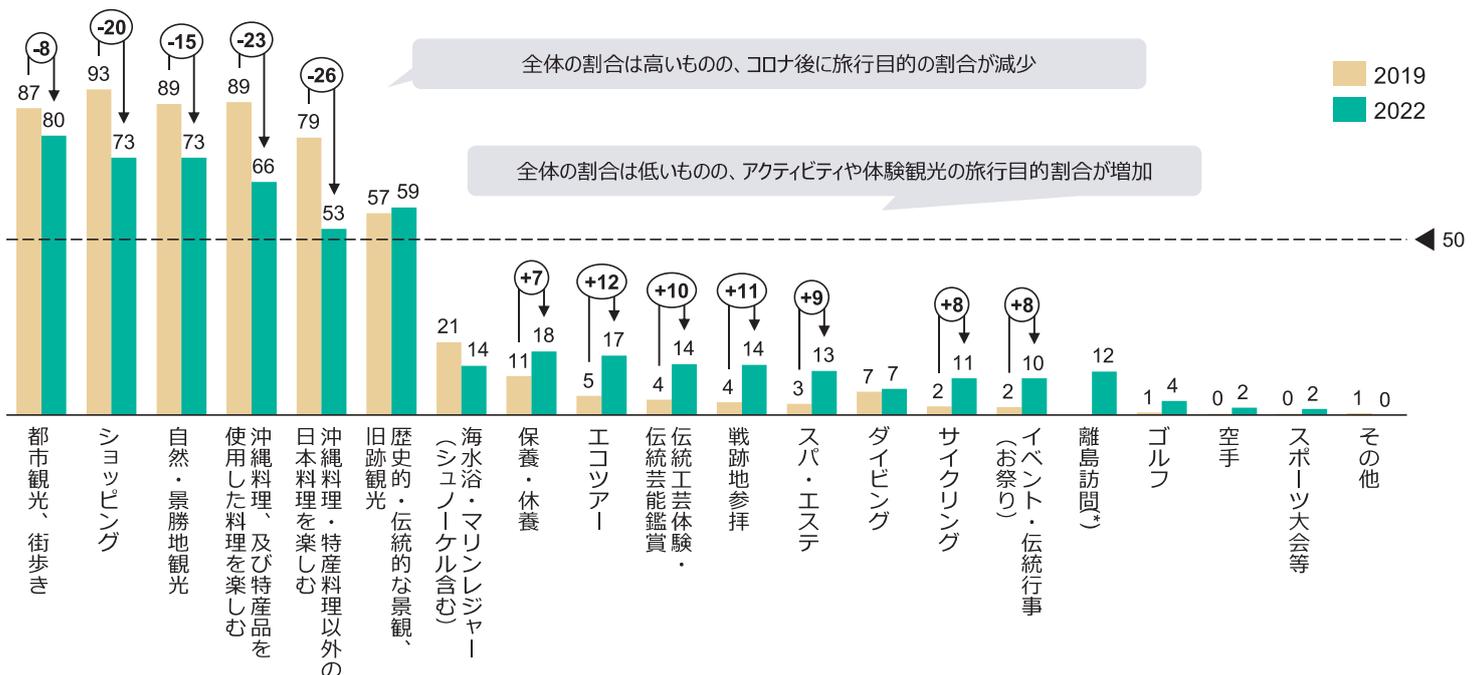


*海路については後述 *居住地別海外観光客数の2024年のデータは1-9月分までの集計結果を2019年の1-9月までの集計結果と年間の集計結果の比率で補正したもので、出所:沖縄県「入域観光客概況（令和元年、令和4年、令和5年）」より作成

沖縄県への海外観光客（空路*）の旅行目的の変化

海外観光客は「都市観光」「ショッピング」「料理」を目的とする観光客が多いものの、コロナ後にその割合は減少している。一方で、選択割合は低いものの、「エコツアー」「サイクリング」等のアクティビティや「スパ・エステ」「イベント」等の体験観光の割合が増えている

単位：%

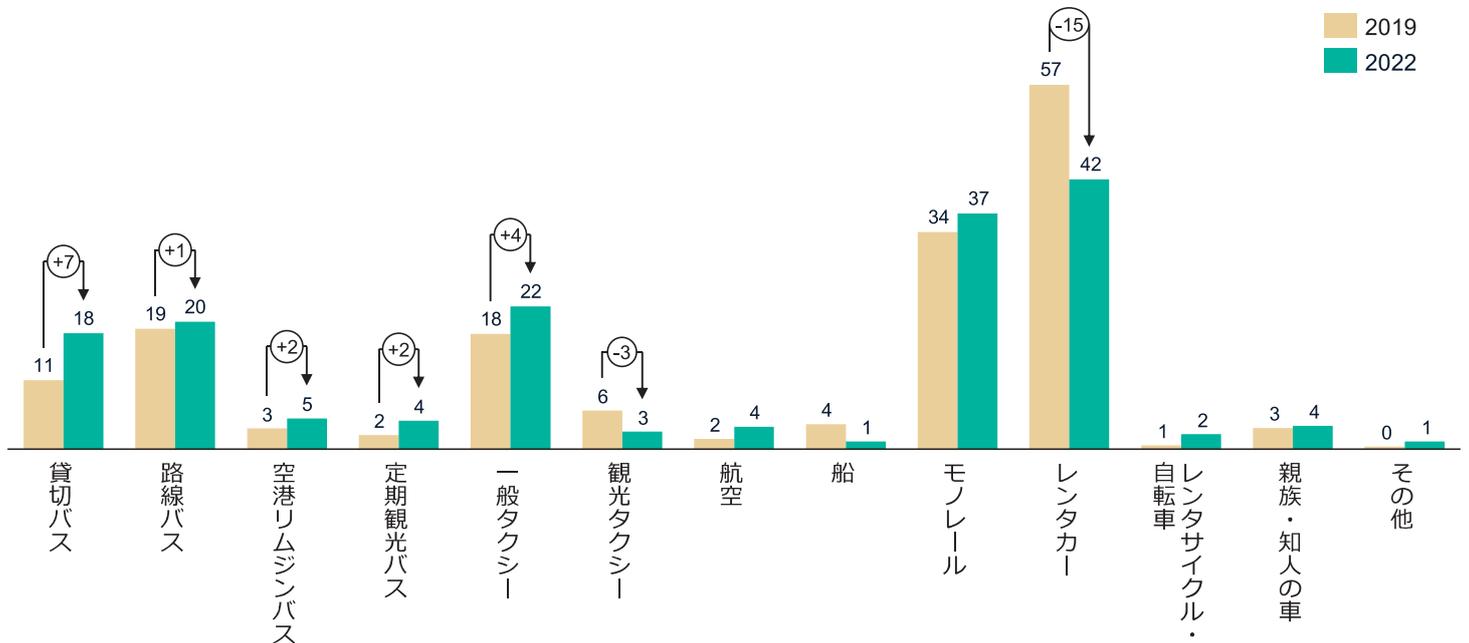


*複数回答となる *海路については後述 *「離島訪問」は2019年調査では調査項目に存在しない
 出所：沖縄県「外国人観光客実態調査報告書（令和元年度、令和4年度）」より作成

沖縄県への海外観光客（空路*）の県内移動方法の変化

海外観光客の移動方法としては「レンタカー」を中心に「モノレール」や「タクシー」、「路線バス」が使われているが、コロナ後は「タクシー」「レンタカー」の割合は減少している

単位：％



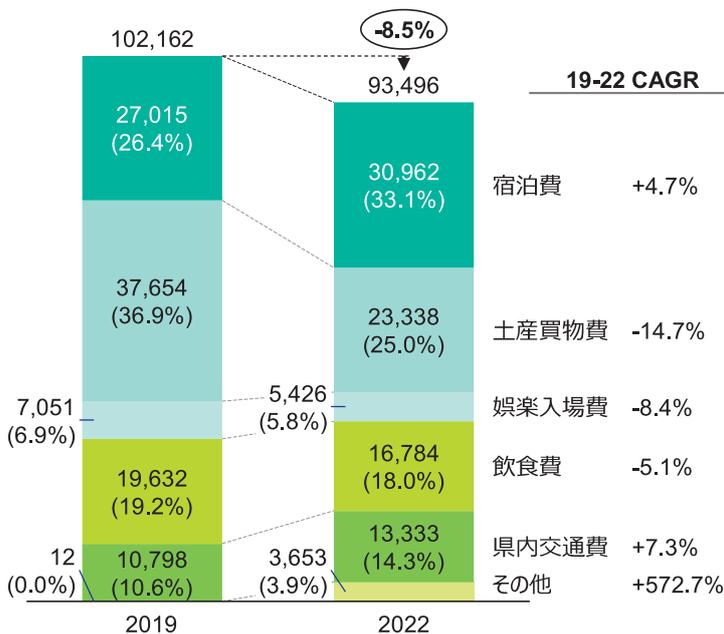
*複数回答となる *海路については後述
出所：沖縄県「外国人観光客実態調査報告書（令和元年度、令和4年度）」より作成

沖縄県への海外観光客（空路*）の消費額の変化

コロナ以前と比較すると宿泊費が増加している一方で土産買物費の減少が大きく、全体としては約1割の減少となっている。国別の平均消費額では中国の平均消費額の減少が大きい

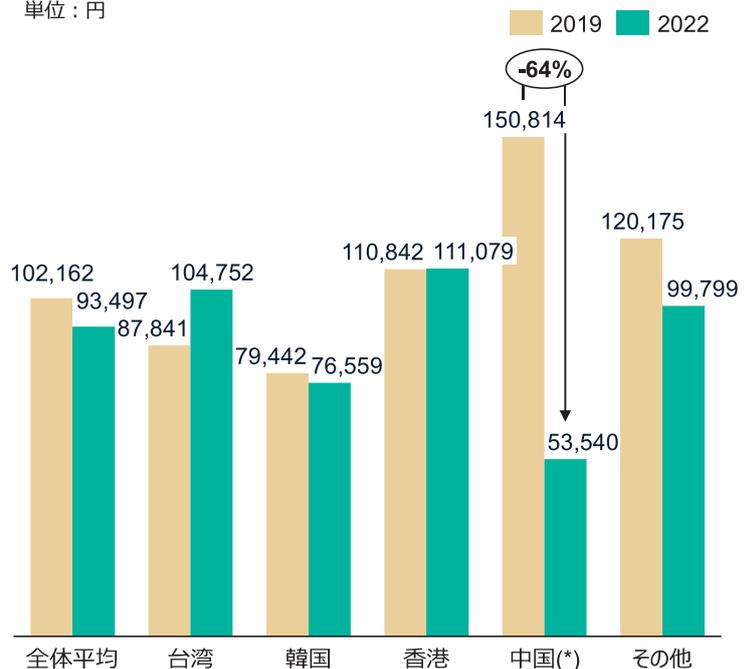
海外観光客（空路）の費目別平均消費額（19年v22年）

単位：円



海外観光客（空路）の国籍別平均消費額（19年v22年）

単位：円



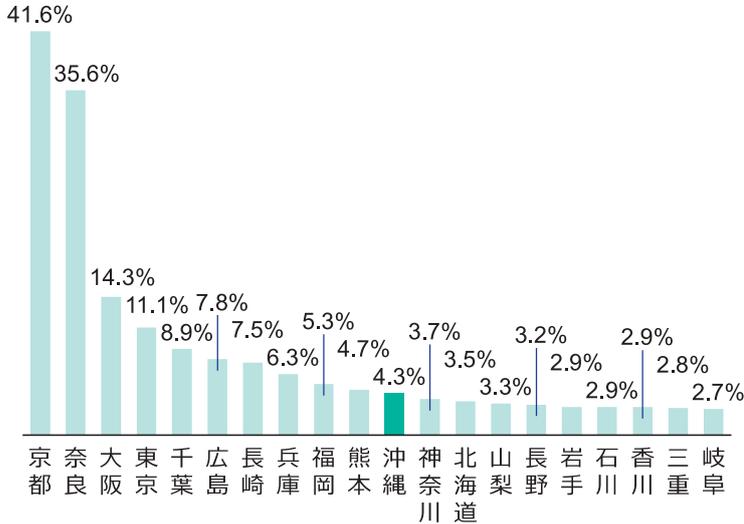
*海路については後述 *中国の2022年のデータは実際の割合に対してサンプル数が非常に少ない
出所：沖縄県「外国人観光客実態調査報告書（令和元年度、令和4年度）」より作成

修学旅行市場における都道府県別訪問割合

沖縄は中学校の修学旅行市場では全体の約4%とシェアを獲得できていないものの、高校の修学旅行先としては全体の20%（全国3位）の訪問割合となっている

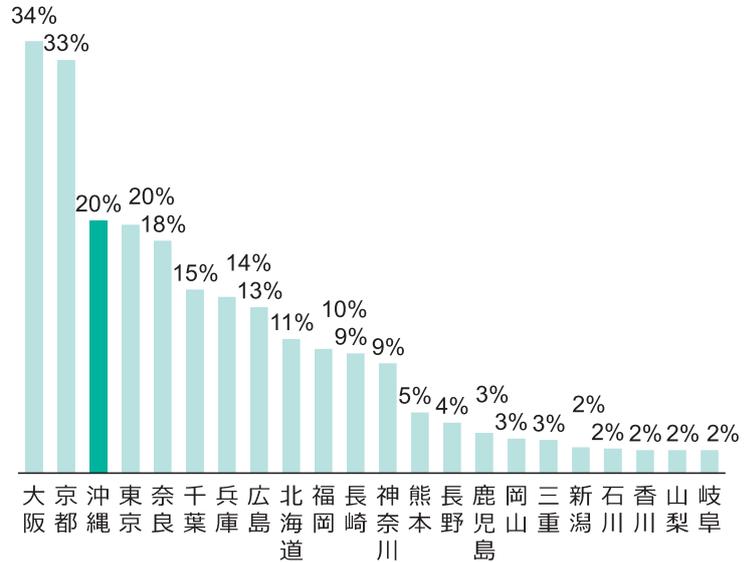
修学旅行者（中学校）の都道府県別訪問割合（22年）

単位：%



修学旅行者（高校）の都道府県別訪問割合（22年）

単位：%



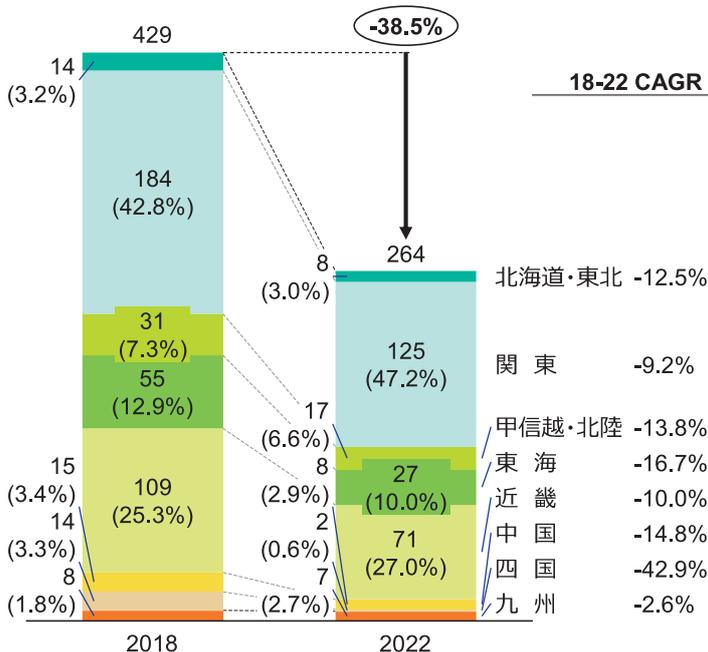
出所：公益財団法人日本修学旅行協会「修学旅行白書」（2022年度）より作成

沖縄県への修学旅行者の出発地と校種別受入数の変化

修学旅行者はコロナ禍以前と比較すると39%減少しており、特に中学の修学旅行者が大幅に減少している

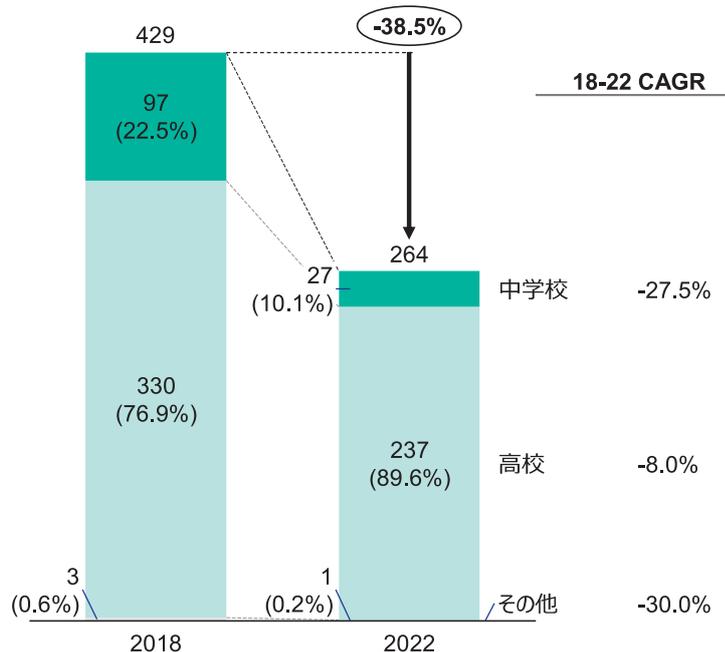
沖縄県への修学旅行者の発地別内訳（18年v22年）

単位：千人



沖縄県への修学旅行者の校種別内訳（18年v22年）

単位：千人



出所：沖縄県「修学旅行入込状況調査報告書（令和30年度、令和4年度）」より作成

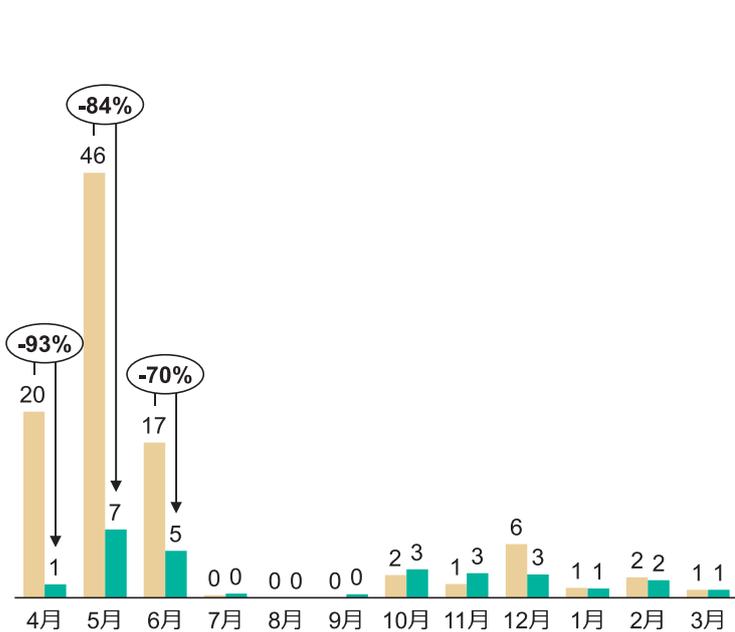
沖縄県への修学旅行客の月別受入校数の変化

中学・高校ともコロナ前よりも受入校数を減らしている。特に、中学は4・5・6月、高校は10・11・12月の受入数が多く減少している

修学旅行客（中学）の月別受入校数（18年v22年）

単位：千人

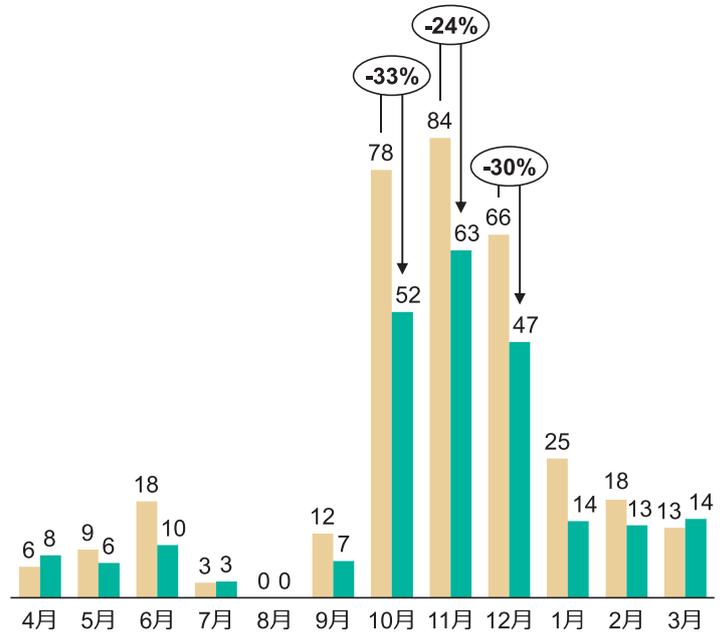
2018 2022



修学旅行客（高校）の月別受入校数（18年v22年）

単位：千人

2018 2022

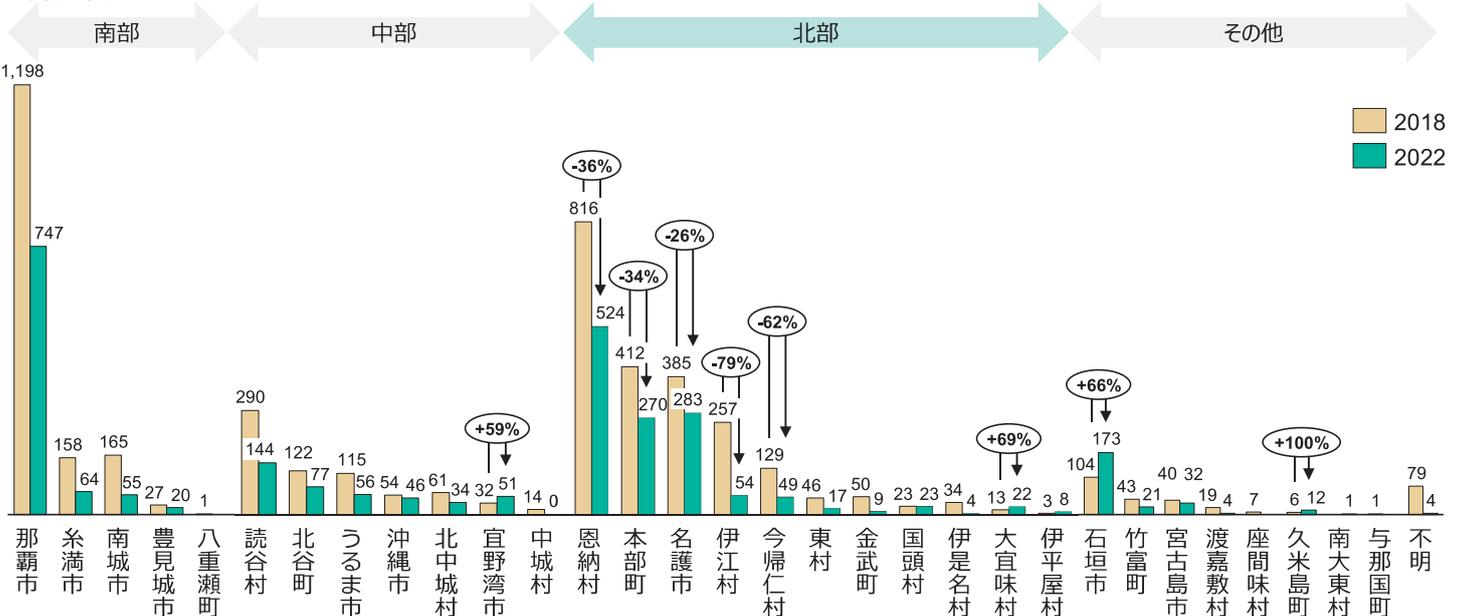


出所：沖縄県「修学旅行入込状況調査報告書（令和30年度、令和4年度）」より作成

沖縄県への修学旅行客の宿泊地別入込状況の変化（市町村別）

沖縄県への修学旅行客の宿泊地入込状況では、宜野湾市・石垣市・大宜味村・久米島町を除く全ての地域で受入校数が減少している。特に、北部地域ではこれまで受入校数の多い恩納村・本部町・名護市・伊江村・今帰仁村を中心に減少している

単位：校



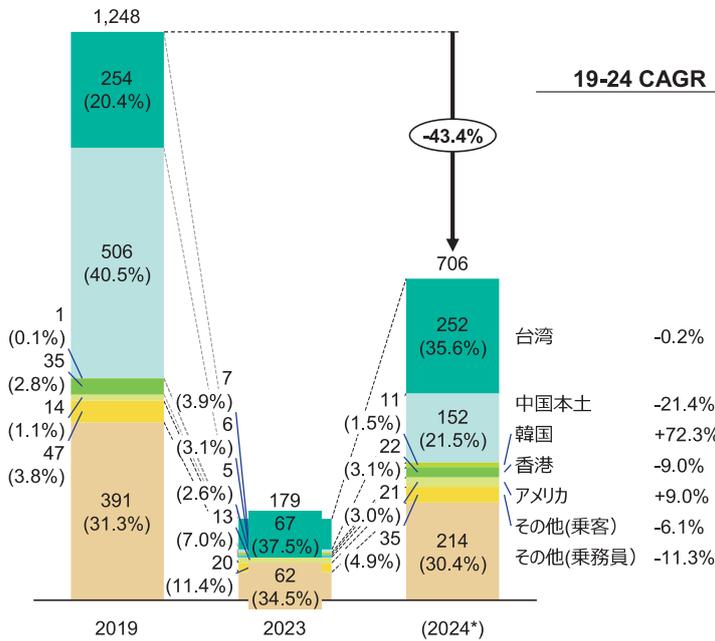
出所：沖縄県「修学旅行入込状況調査報告書（令和30年度、令和4年度）」より作成

沖縄県への海外観光客（海路）の居住地と月別入域者数の変化

クルーズ客は2024年にはコロナ以前と比較すると約43%減少する見込みで、特に中国本土からの訪問者が減少している。
月別では、前年と比較すると大きく回復している一方で、コロナ前水準までは回復していない

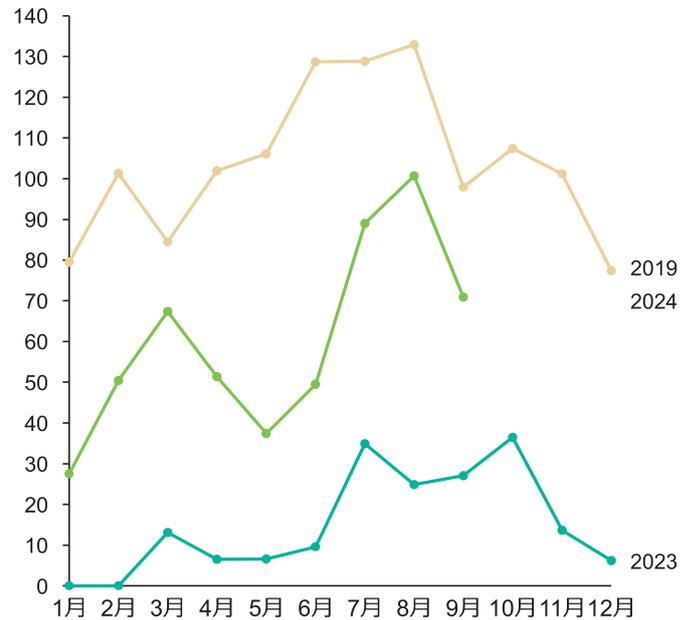
居住地別海外観光客（海路）数（19年v23年v24年）

単位：千人



月別海外観光客（海路）数（19年v23年v24年）

単位：千人



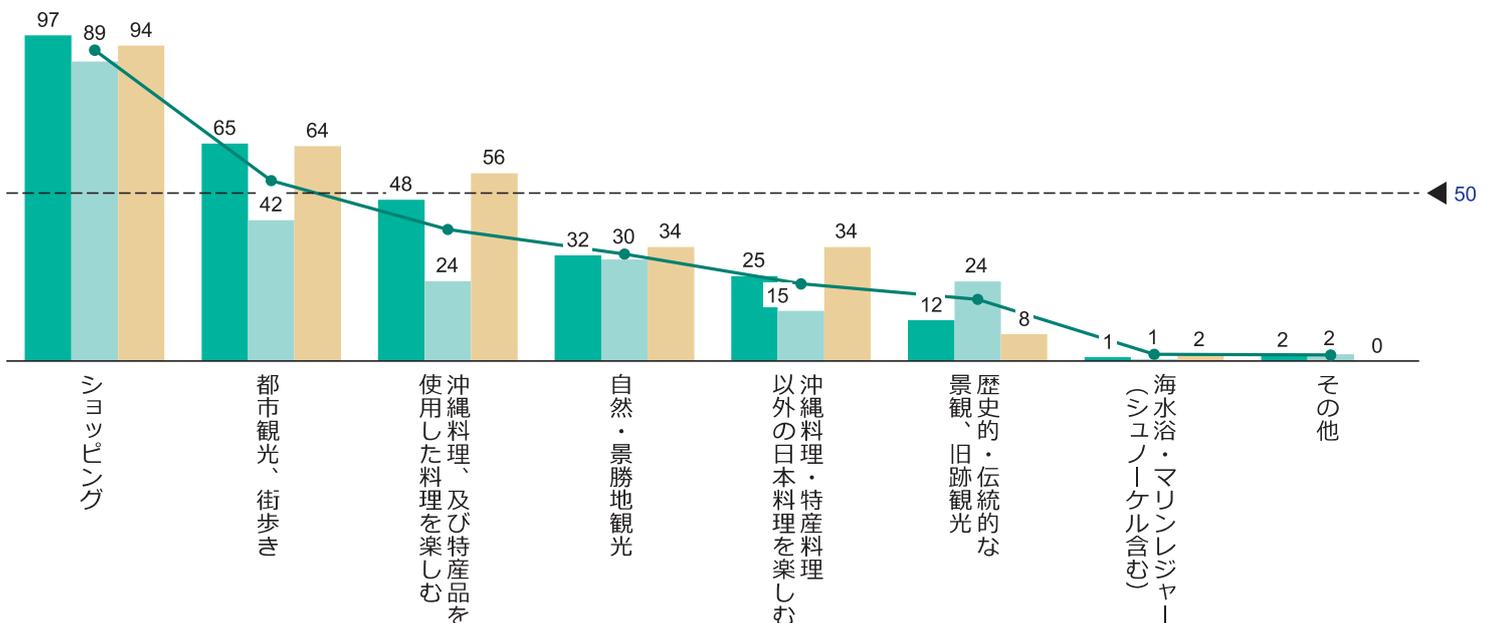
*居住地別海外観光客数の2024年のデータは1-9月分までの集計結果の合計値を2019年の1-9月までの合計値と年間の合計値の比率で補正したものと出所:沖縄県「入域観光客概況（令和元年、令和4年、令和5年）」より作成

沖縄県への海外観光客（海路）の旅行目的（2019年）*

クルーズ客はその他の海外観光客と比較しても「ショッピング」の割合が高く、「都市/景勝地の観光」や「沖縄料理/日本食を楽しむ」と比較しても一際高い割合を占めている。また、国内観光客では「ショッピング」以上の割合を占める「海水浴・マリレジャー」がほとんど見られない

単位：%

● 全体 ■ 台湾 ■ 中国本土 ■ その他



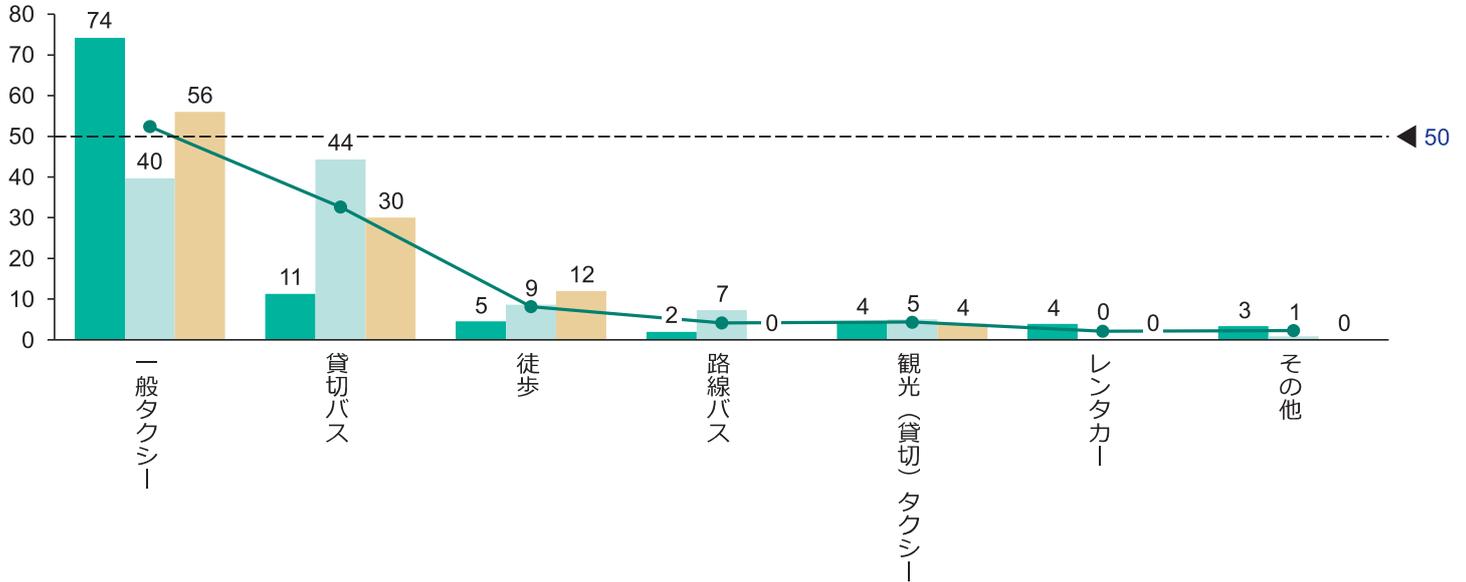
*沖縄県調査では、現時点で2019年のデータが最新のため、コロナ前の傾向把握のためのデータであることに留意
出所：沖縄県「外国人観光客実態調査報告書（令和元年度）」より作成

沖縄県への海外観光客（海路）の県内移動方法（2019年）*

海外観光客（海路）の移動方法の特徴として、「一般タクシー」と「貸切バス」の割合が高い

単位：％

● 全体 ■ 台湾 ■ 中国本土 ■ その他

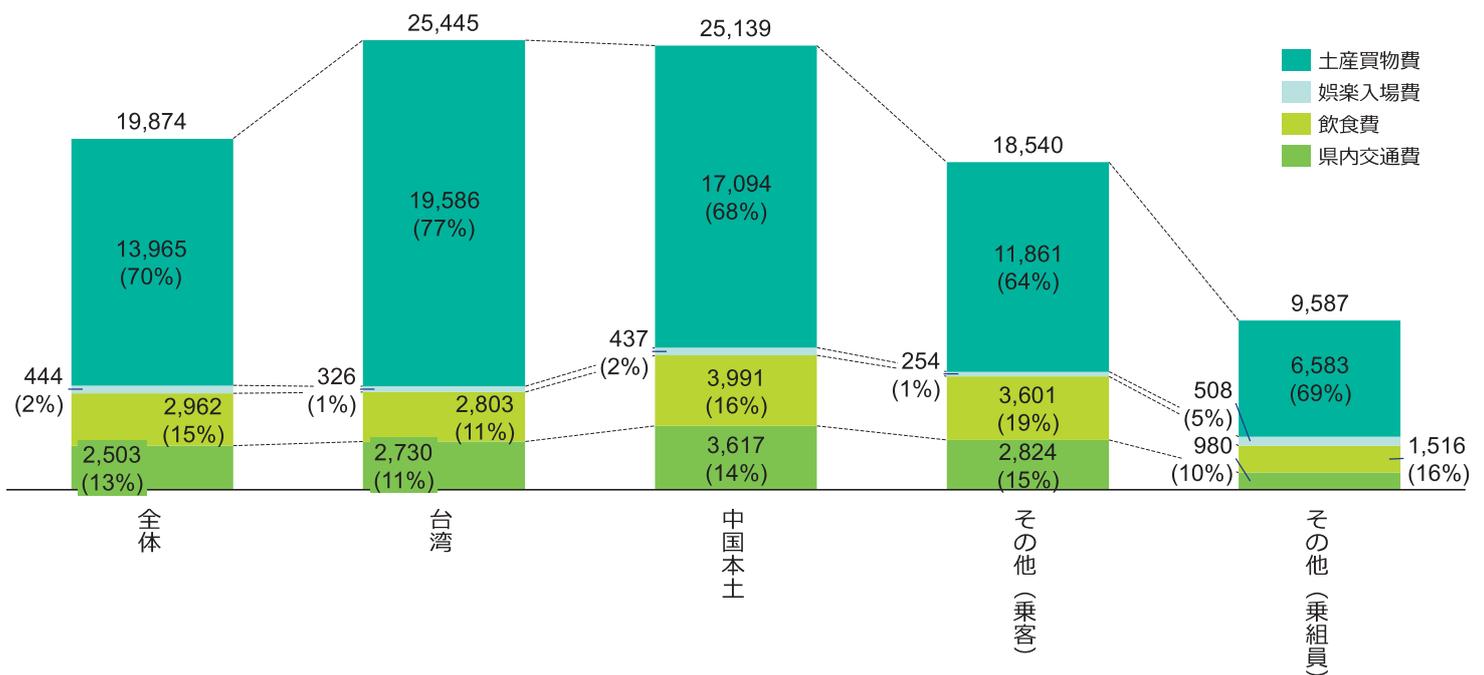


*沖縄県調査では、現時点で2019年のデータが最新のため、コロナ前の傾向把握のためのデータであることに留意
出所：沖縄県「外国人観光客実態調査報告書（令和元年度）」より作成

沖縄県への海外観光客（海路）の県内消費額（2019年）*

クルーズ客の県内消費額の特徴として、土産買物費の割合が高い

単位：円



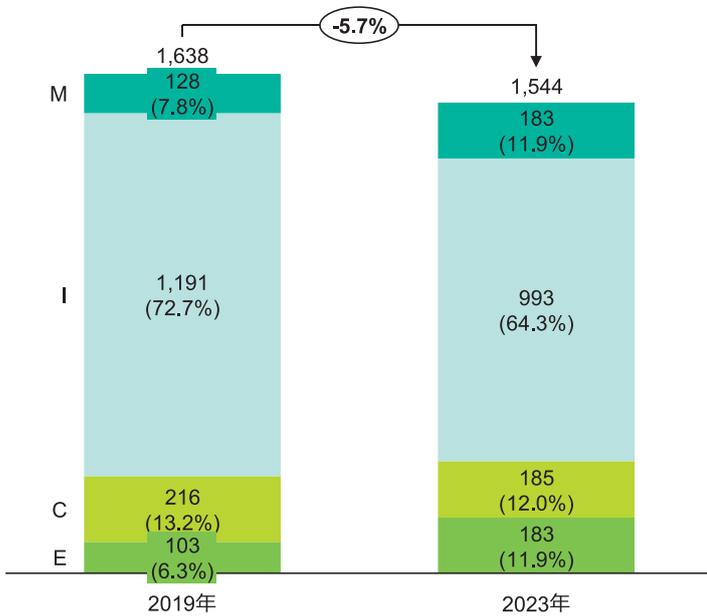
*沖縄県調査では、現時点で2019年のデータが最新のため、コロナ前の傾向把握のためのデータであることに留意
出所：沖縄県「外国人観光客実態調査報告書（令和元年度）」より作成

沖縄県内MICEのコロナ前後での変化（催事別）

コロナ前後の沖縄県内のMICE開催件数はコロナ前水準よりも約6%減であるものの、大型催事（E）が増えたことにより開催人数については20%増加している

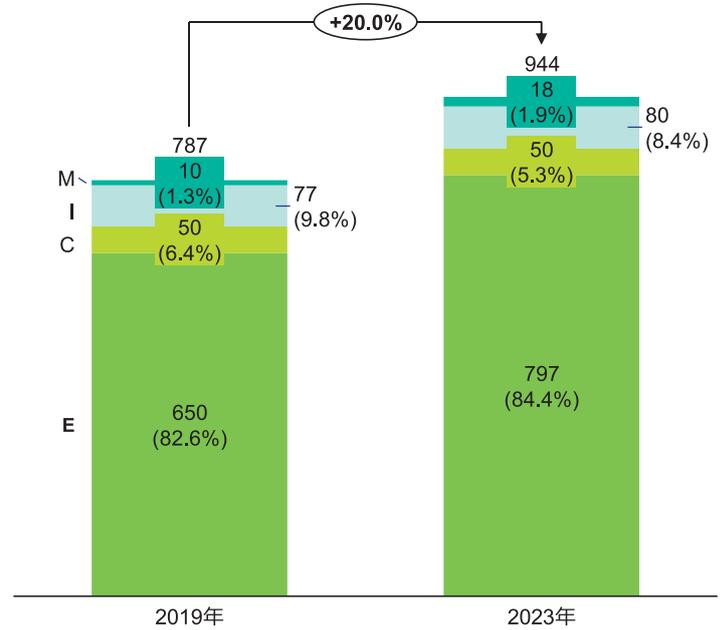
沖縄県内MICEの開催件数（19年v23年）

単位：件



沖縄県内MICEの開催人数（19年v23年）

単位：千人



* 本集計で用いているMICEの定義は右記のとおり。M (Meeting)、I (Incentive Travel)、C (Convention)、E (Event, Exhibition)
出所：沖縄県「沖縄MICE開催実態調査報告書」(2019年、2023年)を基に作成

沖縄県内MICEのコロナ前後での変化（地域・催事別）

沖縄県内の各地域別のMICE開催件数では、コロナ時と比較して、北部・中部地域でインセンティブ旅行の開催件数が減少している一方で、南部・宮古・八重山エリアでの開催件数が増加している

沖縄県内のMICE開催件数（19年v23年）

北部地域

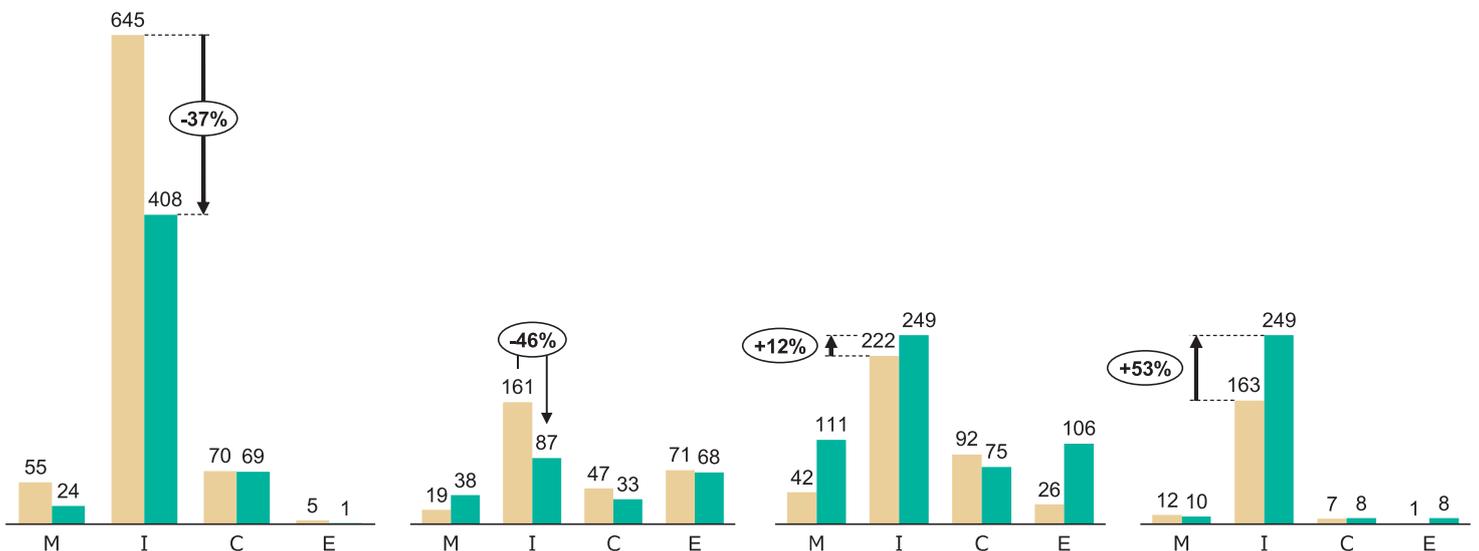
中部地域

南部地域

宮古・八重山地域

単位：件

2019 2023

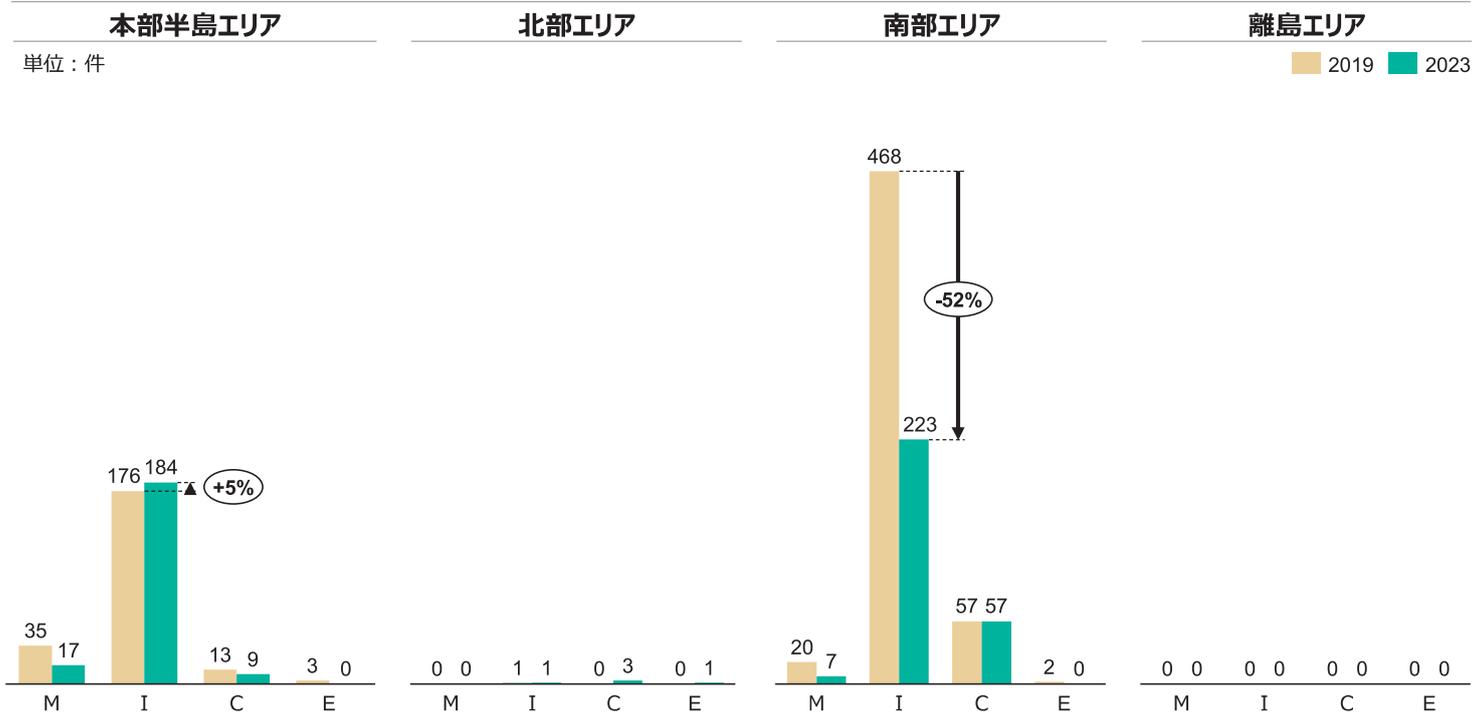


出所：沖縄県「沖縄MICE開催実態調査報告書」(2019年、2023年)を基に作成

やんばる地域内で開催されるMICEのコロナ前後での変化（催事別）

北部地域の各地域別のMICE開催件数は、コロナ前から本部半島エリア（名護市）及び南部エリア（恩納村）でインセンティブ旅行を中心に開催されてきたが、コロナ後は南部エリアで開催されていたインセンティブ旅行がマイナス52%と半減している

やんばる地域内のMICE開催件数（19年v23年）

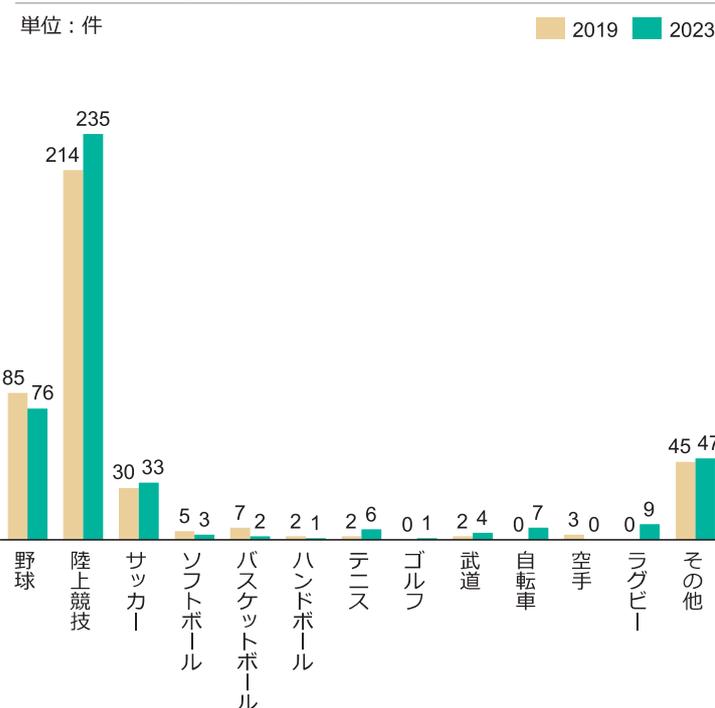


* 北部地域を4つの区分に分け集計（本部半島エリア（名護市、今帰仁村、名護市）、北部エリア（国頭村、大宜味村、東村）、南部エリア（恩納村、金武町、宜野座村）、離島エリア（伊江村、伊是名村、伊平屋村））
出所：沖縄県「沖縄MICE開催実態調査報告書」（2019年、2023年）を基に作成

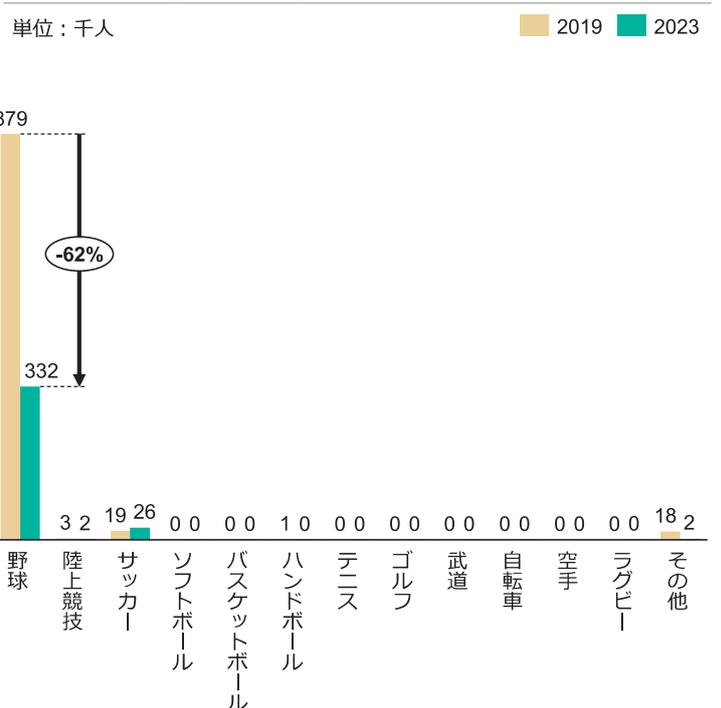
県内スポーツコンベンションのコロナ前後での変化

沖縄県内の各スポーツのキャンプ合宿・自主トレ*のコロナ前後の開催件数は、総件数が増加しているものの、野球関連の大型キャンプが減ったことにより、参加人数が減っている

種目別の開催件数（19年v23年）



種目別の参加人数（19年v23年）

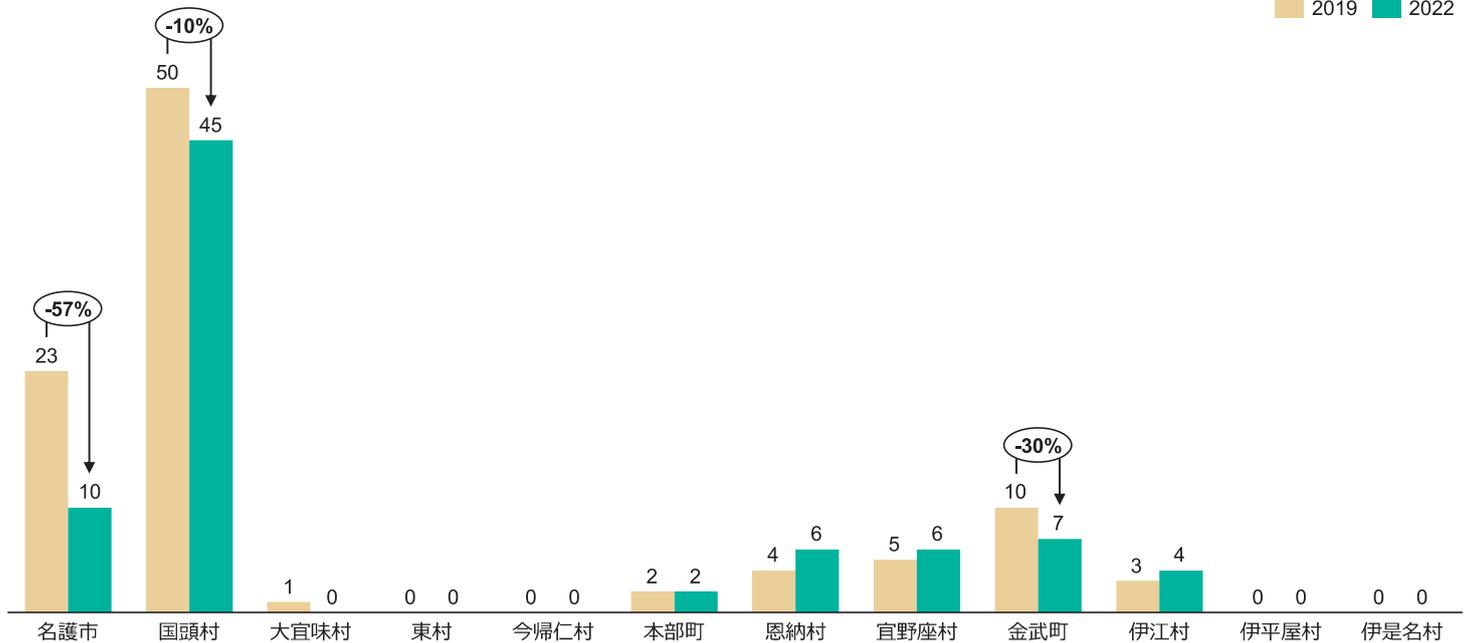


* 開催カテゴリは、キャンプ合宿・自主トレを対象に集計
出所：沖縄県「スポーツコンベンション開催実績一覧」より作成

やんばる地域内のスポーツコンベンションのコロナ前後の変化

やんばる地域内のキャンプ合宿・自主トレは、国頭村が最も多く、名護市、金武町、恩納村と続く。上位3市町村ともにコロナ前の開催件数を下回っている

単位：件

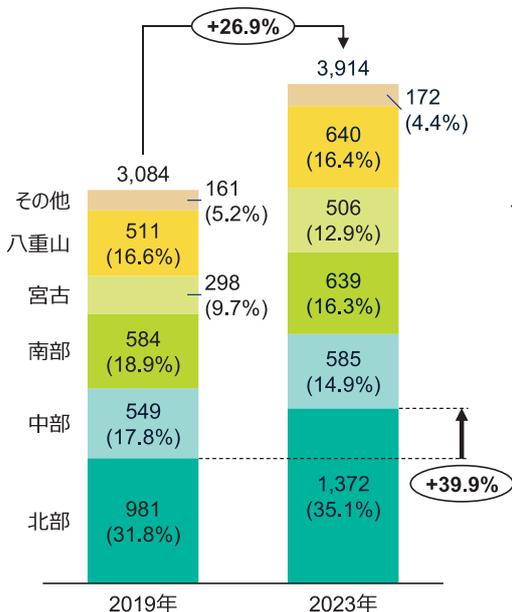


*市町村別の数字が開示されているキャンプ合宿・自主トレのみを対象に集計
出所：沖縄県「スポーツコンベンション開催実績一覧」より作成

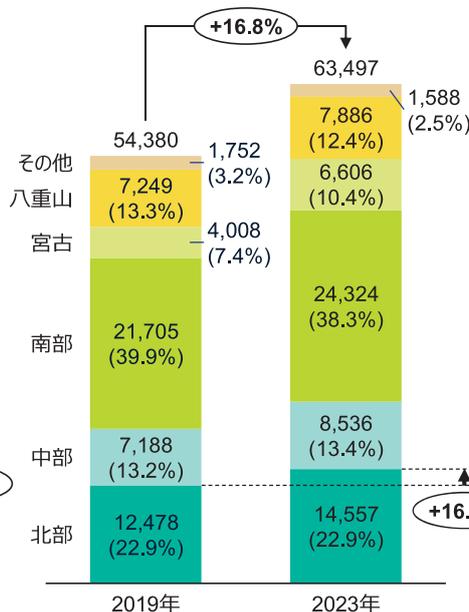
沖縄県の宿泊施設の軒数・客室数・収容人数の推移（2019年～2023年）

コロナ以前の2019年と直近の2023年の沖縄県の宿泊施設の軒数・客室数・収容人数の推移をみると、北部地域は軒数、客室数、収容人数ともに増加。収容人数ベースでは沖縄県の宿泊施設のキャパシティの28.6%を占める

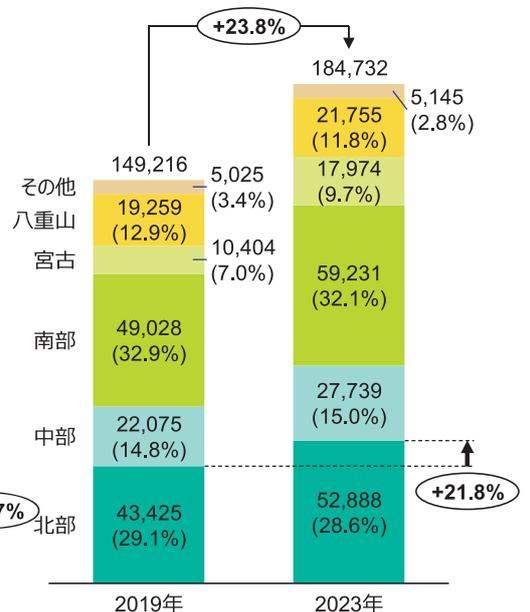
軒数（19年v23年）



客室数（19年v23年）



収容人数（19年v23年）

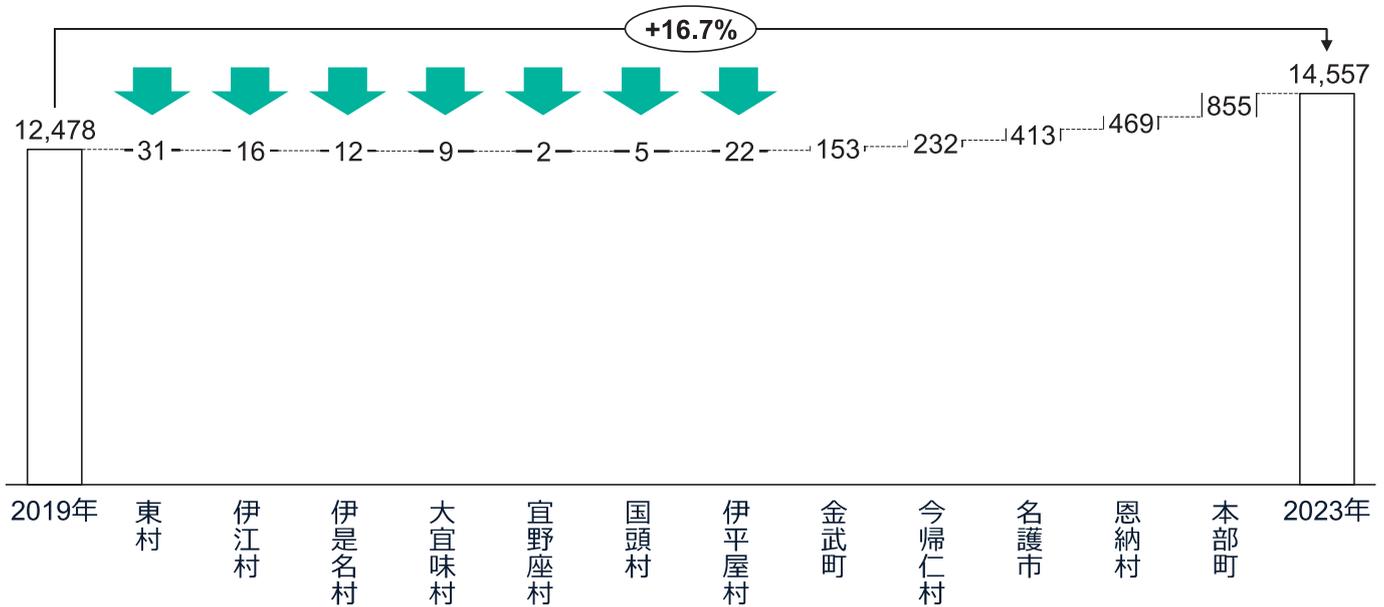


*北部は北部12市町村として集計
出所：沖縄県「宿泊施設実態調査」より作成

北部12市町村の宿泊施設の総客室数の変化（2019年～2023年）

北部12市町村の宿泊施設の総客室数の市町村別の2019年から2023年の変化を見ると、恩納村、金武町、今帰仁村、本部町、名護市で客室数を増加させている

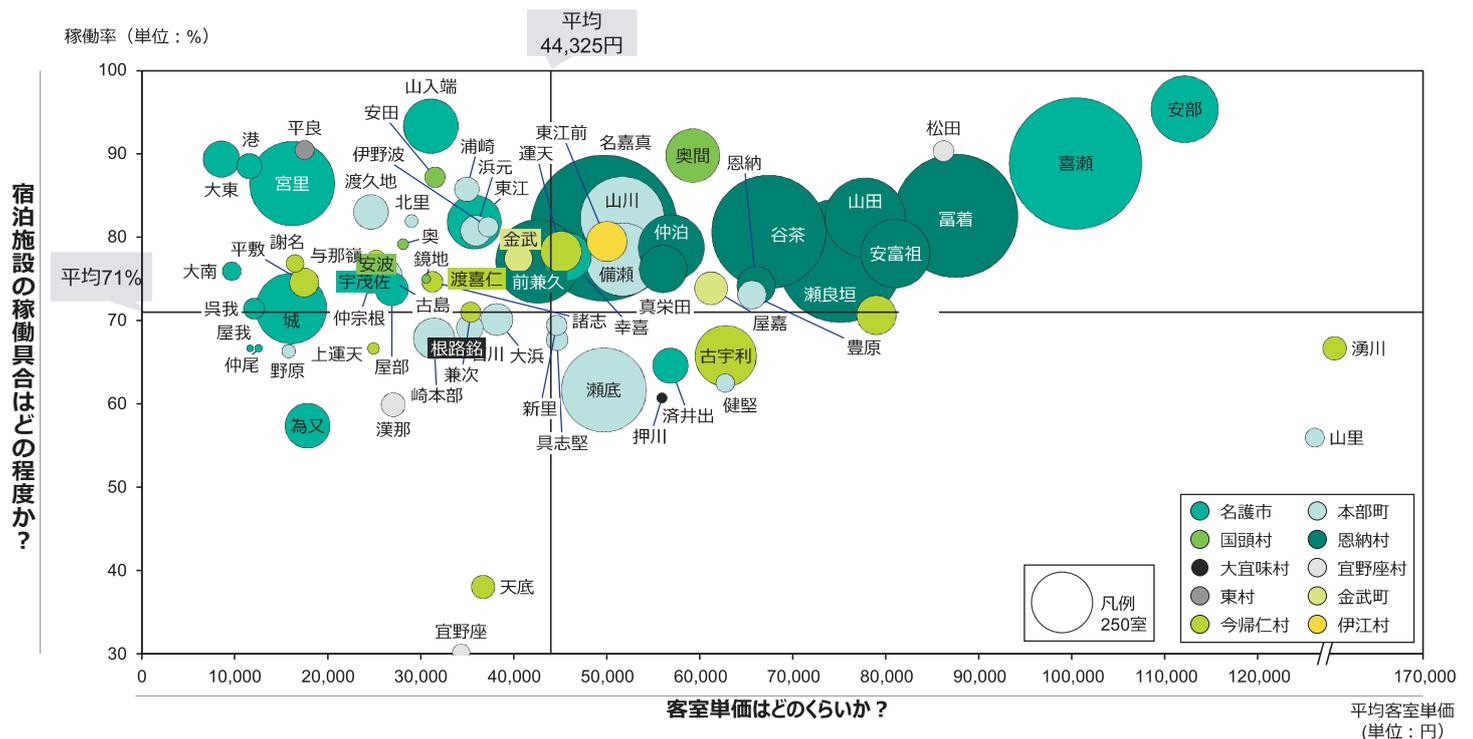
単位：室



出所：沖縄県「宿泊施設実態調査」より作成

北部12市町村の字別宿泊施設の平均客室単価、平均稼働率、客室数（2022年11月～2023年10月平均）

一方で、北部12市町村の宿泊施設を字別に見ると、名護は高価格からビジネスユースの安価なホテルが偏在。恩納村は高価格帯のホテルが集積、本部町や今帰仁村も高価格から1万円前後までの幅広い宿泊施設が集積している

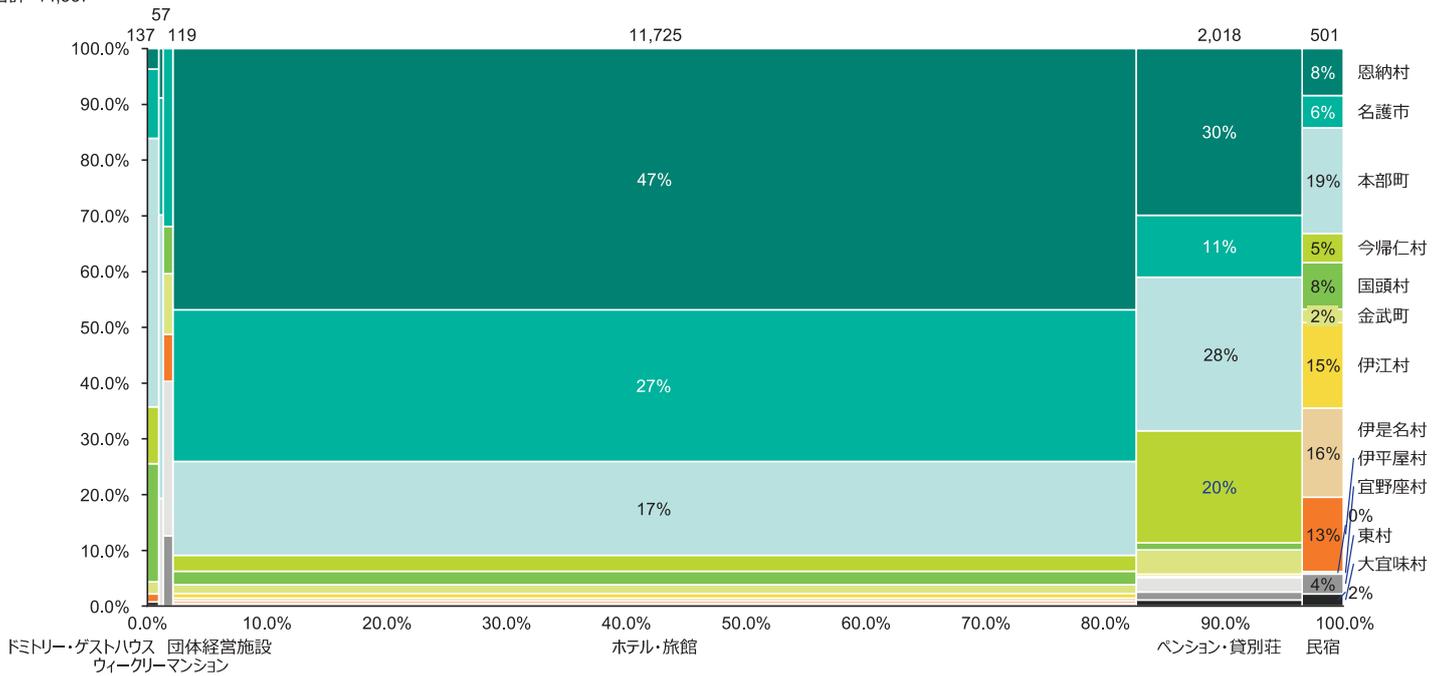


出所：メトロエンジン、OTAコントロールデータより作成

北部12市町村の総客室数のタイプ別・市町村別宿泊施設の構成比（2023年）

北部12市町村の宿泊施設の総客室数をタイプ別・市町村別にみると、ホテル・旅館が全体の70%以上を占め、うち、恩納村、名護市、本部町が90%以上を占める

合計=14,557



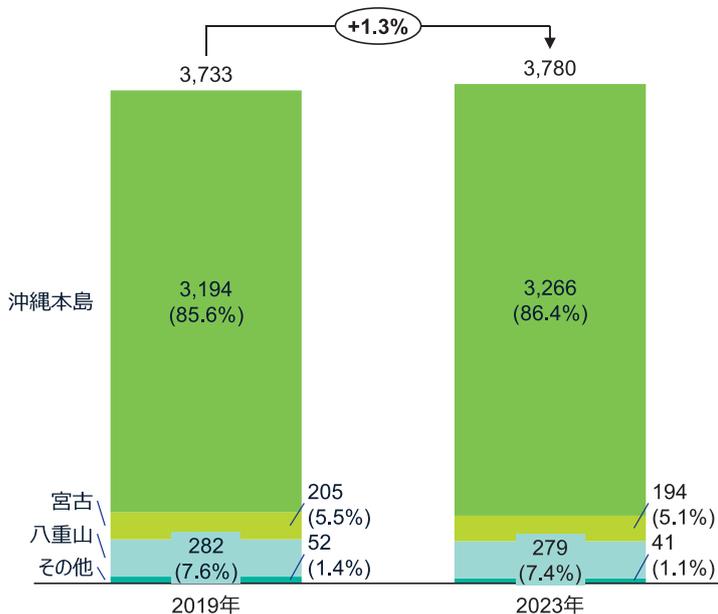
出所：沖縄県「宿泊施設実態調査」より作成

沖縄県内タクシー・ハイヤーの車両数及び運転者数の変化

2019年と直近の2023年の沖縄県内のタクシー・ハイヤーの車両数・運転者数をみると、車両数はコロナ前水準以上まで回復しているものの、運転者数は約19%減少している

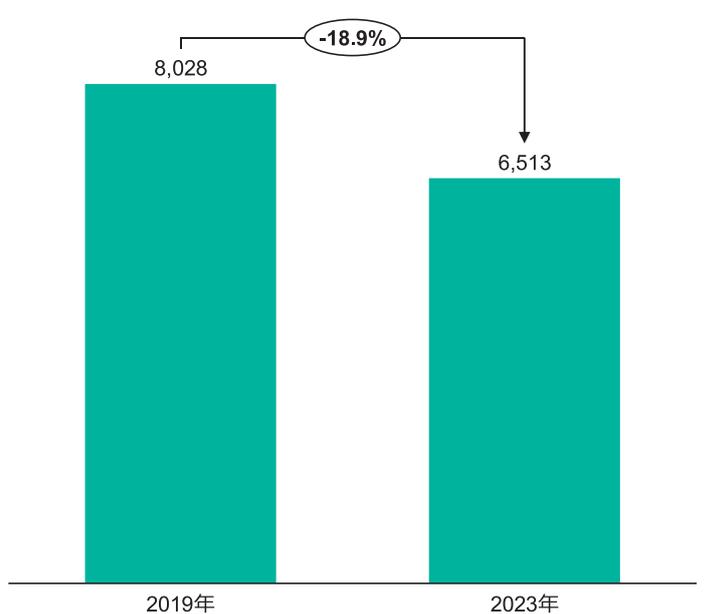
県内タクシー・ハイヤーの車両数（19年v23年）*

単位：台



県内タクシー・ハイヤーの運転者数（19年v23年）*

単位：人



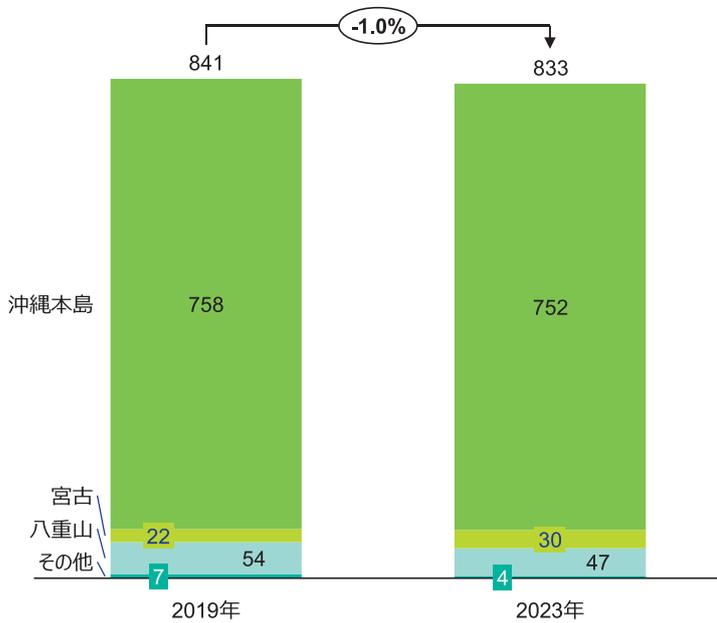
*一般乗用旅客自動車運送（法人タクシー・ハイヤー）、自家用自動車有償貸渡業（レンタカー）の車両台数を集計
出所：沖縄県総合事務局陸運事務所「業務概況」（2020年度、2023年度）より作成

沖縄県内バスの車両数・運転者数の変化

2019年と直近の2023年の沖縄県内バスの車両台数と運転者数は、車両数はコロナ前水準とほぼ変わらないものの、運転者数がコロナ前から約10%減少している

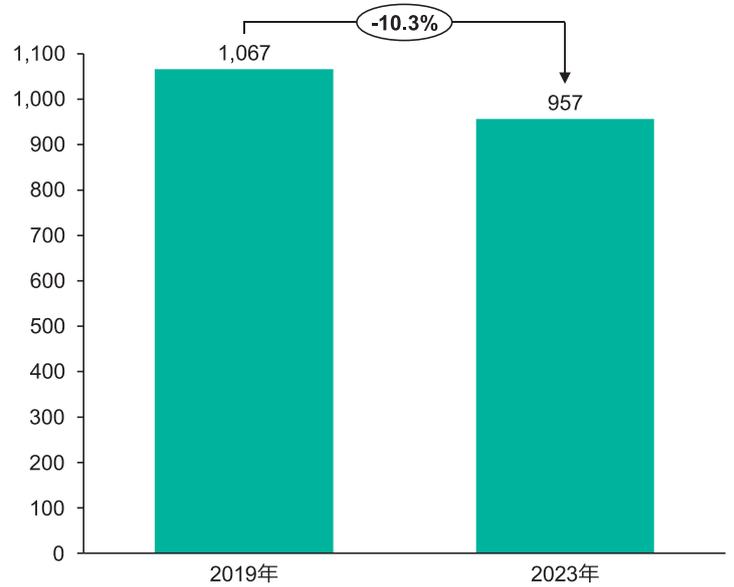
一般乗合旅客自動車（バス）の車両数（19年v23年）*

単位：台



一般乗合旅客自動車（バス）の運転者数（19年v23年）*

単位：人

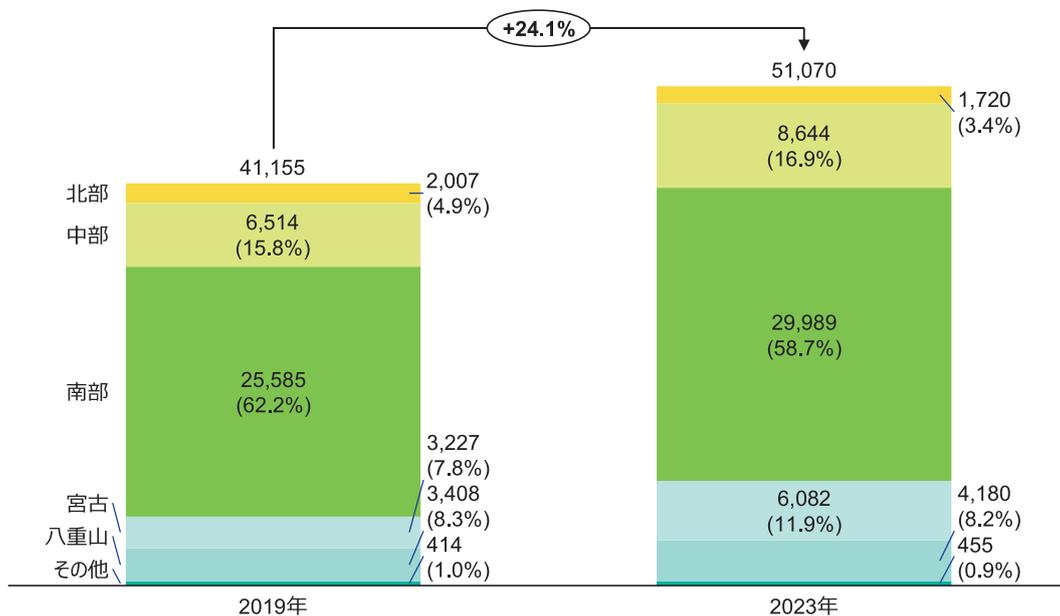


*2019年は2020年3月末、2023年は2024年3月末のデータを参照
出所：沖縄県総合事務局陸運事務所「業務概況」（2020年度、2023年度）より分析

レンタカーの車両台数の変化（19年v23年）*

レンタカーの車両台数は、一時期供給不足が指摘されていたものの2023年時点ではコロナ前から約24%増加している

単位：台



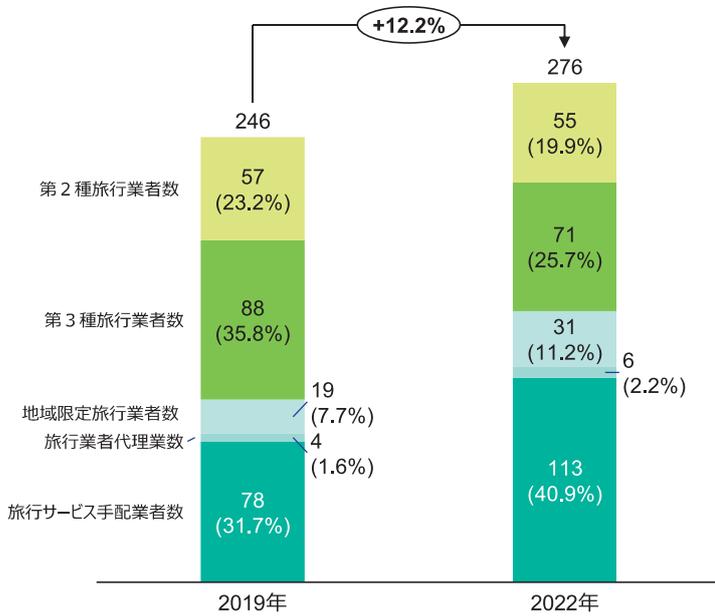
*2019年は2020年3月末、2023年は2024年3月末のデータを参照
出所：沖縄総合事務局「運輸要覧」（2023年度）より作成

旅行業・通訳ガイド数の変化

2019年と直近の2022年の沖縄県内の旅行業・通訳案内士の登録数推移では、旅行業の登録数はコロナ前よりも増加しており、特に旅行サービス手配業者数が増えている。また、地域通訳案内士の数も英・中・韓で減少している

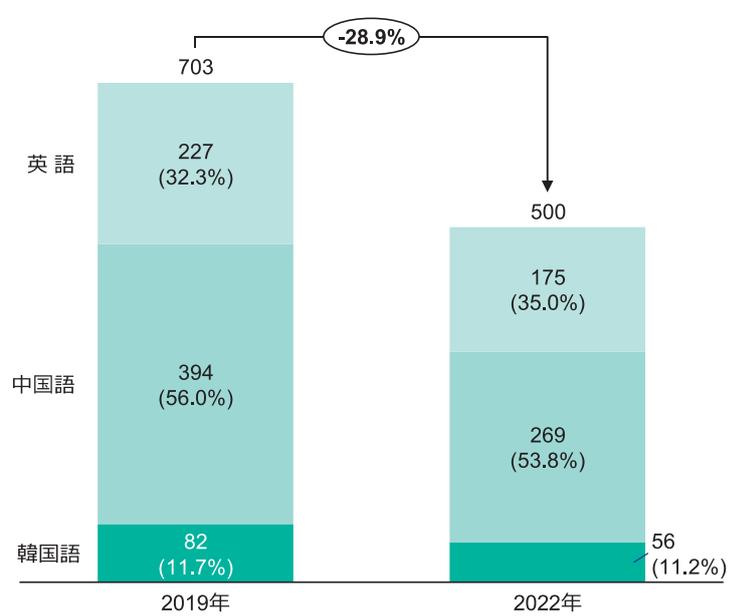
旅行業者・旅行業者代理業者・旅行サービス手配業者登録数（19年vs22年）

単位：件



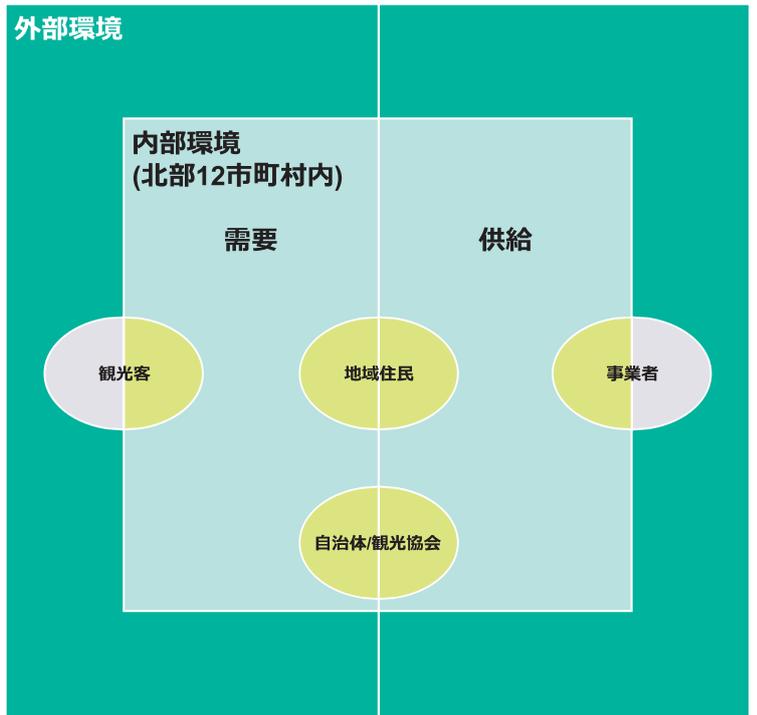
沖縄県地域通訳案内士登録者数（19年vs22年）

単位：人



出所：沖縄県「観光要覧」（2019年、2022年）より作成

資料2 やんばる地域の 観光の現状と課題

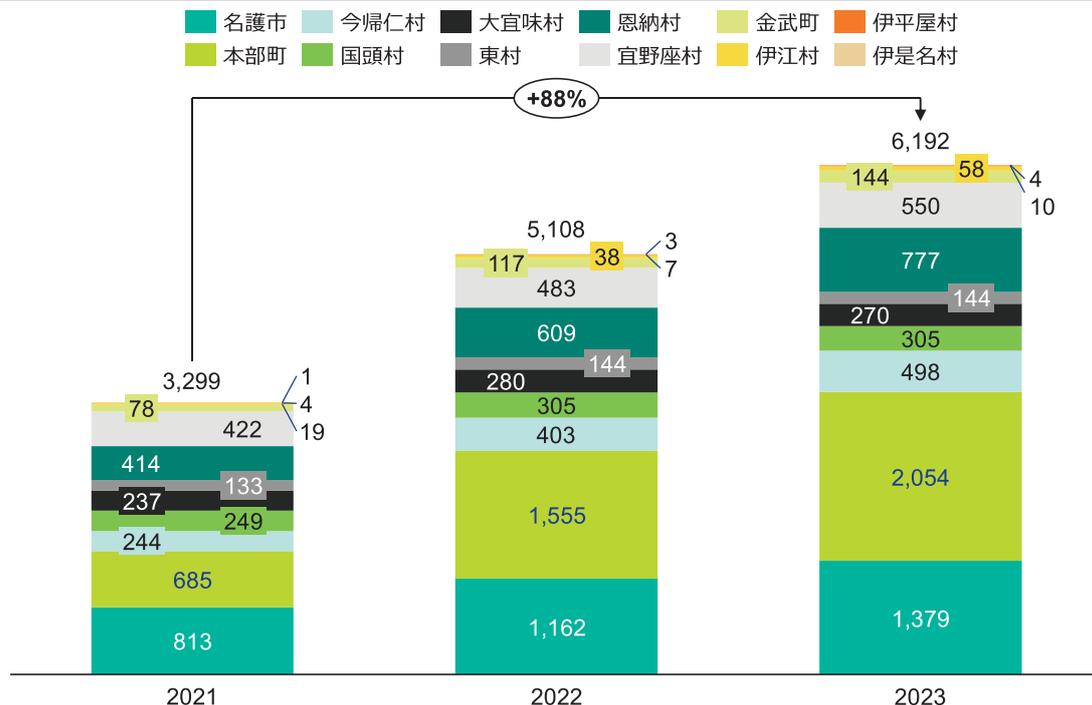


やんばる地域への観光来訪者数の推移

北部12市町村の観光目的の観光来訪者数*は新型コロナの影響から回復し2023年で約620万人に達している

北部12市町村の市町村別日本国内に居住する観光来訪者数の推移

単位：千人

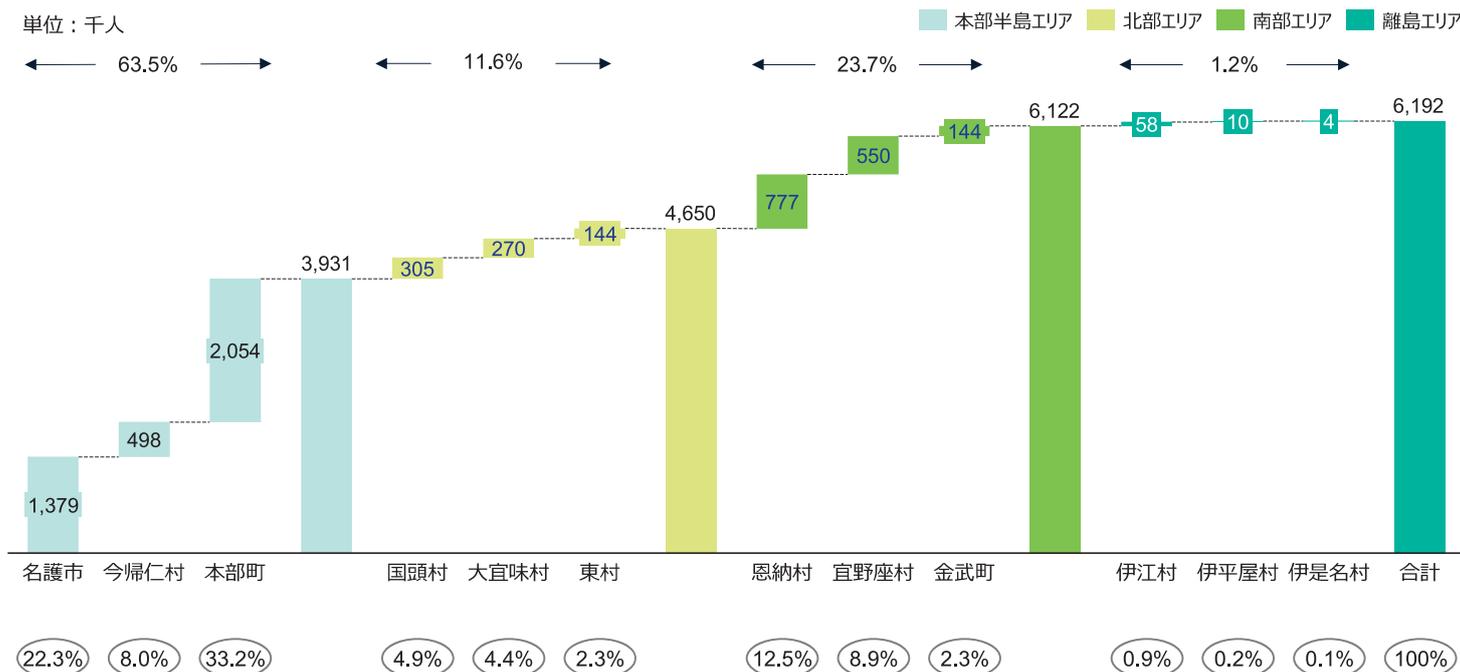


*日本国内に居住する者で観光目的（＝観光地点来訪、ただし、通勤目的を除く）のため、日常生活圏（自宅から直線距離が20km以上）以外の観光地点を訪れた者を観光来訪者としている。
1人の観光来訪者が一日のうちに当該都道府県あるいは当該市町村内の複数の観光地点を訪れたとしても、1人とカウント
出所：日本観光振興協会「デジタル観光統計オープンデータ」より作成

やんばる地域への観光来訪者数の構成比（2023年）

やんばる地域への観光来訪者数は本部半島エリアで63.5%を占め、南部エリアは23.7%を占める。市町村別では、本部町が全体の33.2%を占め、名護市が22.3%で次ぐ

単位：千人

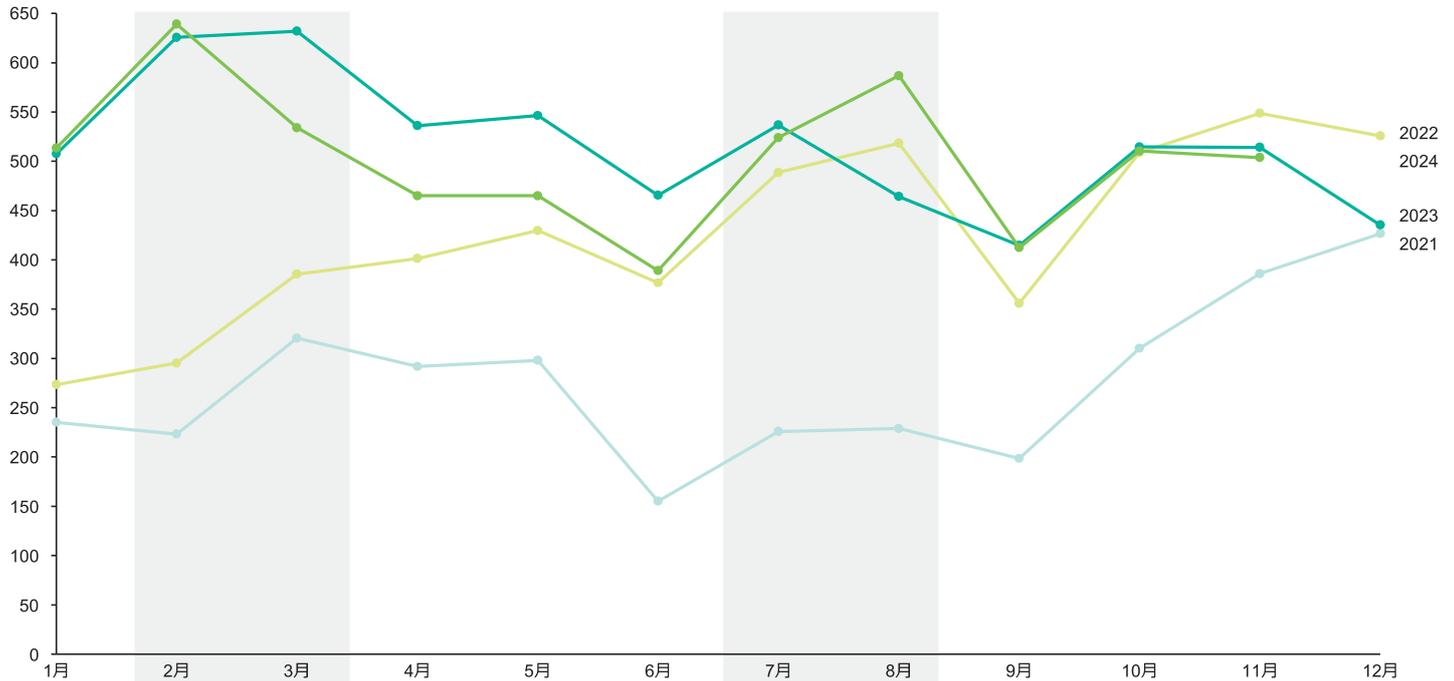


*日本国内に居住する者で観光目的（＝観光地点来訪、ただし、通勤目的を除く）のため、日常生活圏（自宅から直線距離が20km以上）以外の観光地点を訪れた者を観光来訪者としている。
1人の観光来訪者が一日のうちに当該都道府県あるいは当該市町村内の複数の観光地点を訪れたとしても、1人とカウント
出所：日本観光振興協会「デジタル観光統計オープンデータ」より作成

やんばる地域への観光来訪者数の月別推移

やんばる地域への観光来訪者数の月別の傾向を見ると、2~3月と7~8月に波が存在

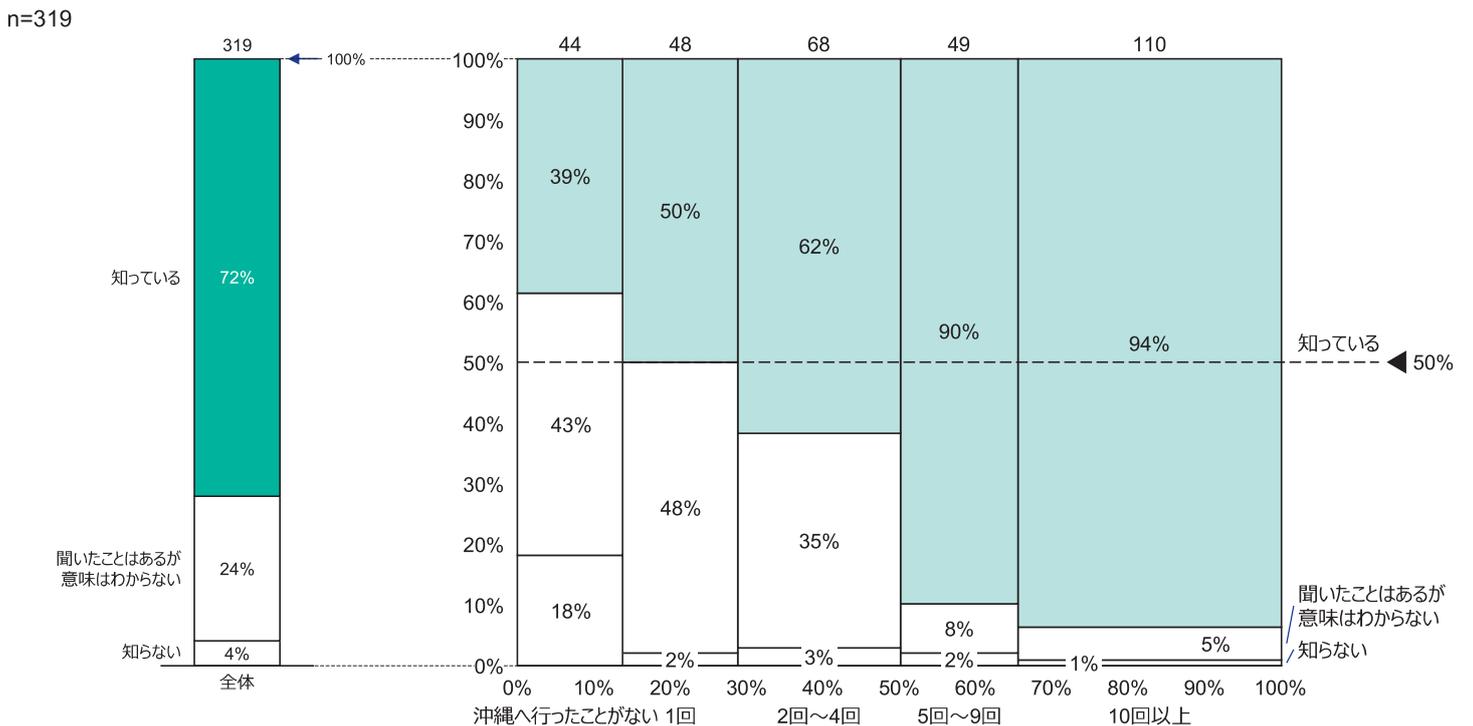
単位：千人



*日本国内に居住する者で観光目的（＝観光地点来訪、ただし、通勤目的を除く）のため、日常生活圏（自宅から直線距離が20km以上）以外の観光地点を訪れた者を観光来訪者としている。
 1人の観光来訪者が一日のうちに当該都道府県あるいは当該市町村内の複数の観光地点を訪れたとしても、1人とカウント
 出所：日本観光振興協会「デジタル観光統計オープンデータ」より作成

やんばる（沖縄北部地域）に対する認知度

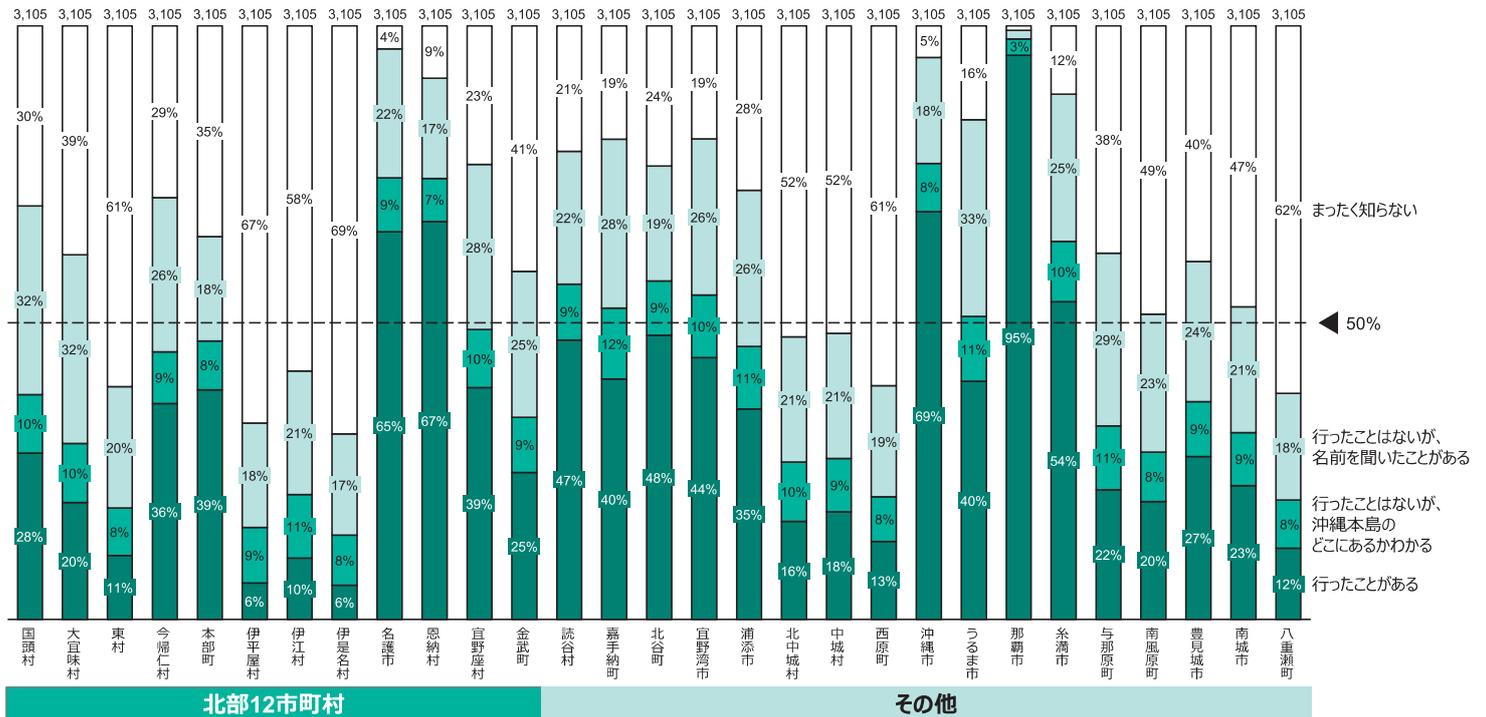
“やんばる”という単語の認知度は約7割。沖縄への来訪回数が増加すれば増加するほど、認知度は高くなる



*東京でのアンケートのため、首都圏居住者が9割を超えるアンケート調査
 出所：「サンシャインシティめんそーれフェスタ（5月24～28日実施）」より作成

沖縄旅行者の北部12市町村別の認知度

市町村別の認知度*では、名護市と恩納村の認知度は90%を超えている。一方で、伊江村、東村、伊平屋村の認知度は低い



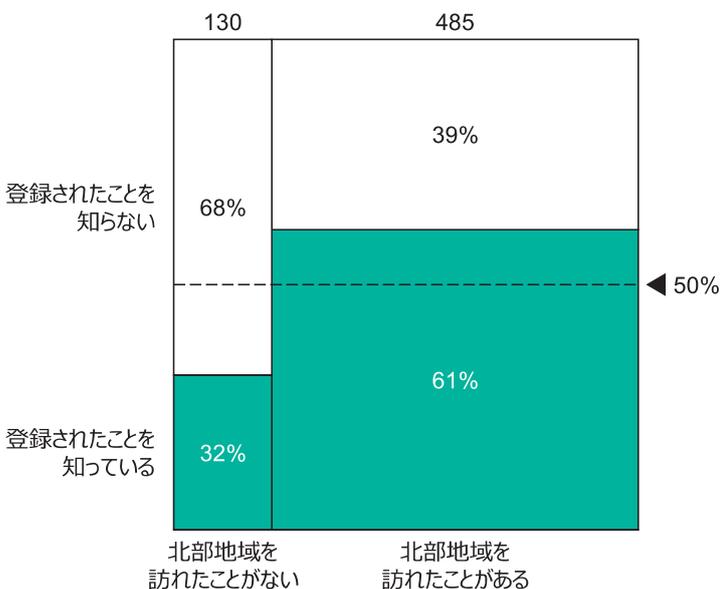
*認知度 = 行ったことがある + 行ったことはないが、沖縄本島のどこにあるかわかる + 行ったことはないが、名前を聞いたことがあるの合計
出所：アンケート調査より作成

沖縄旅行者の世界自然遺産登録に対する認知度

一般消費者のうち北部地域訪問経験者では約6割が、訪問未経験者では約3割が世界自然遺産登録を認知。また、沖縄訪問回数が増えるにつれて世界自然遺産登録への認知度が高い傾向がみられる

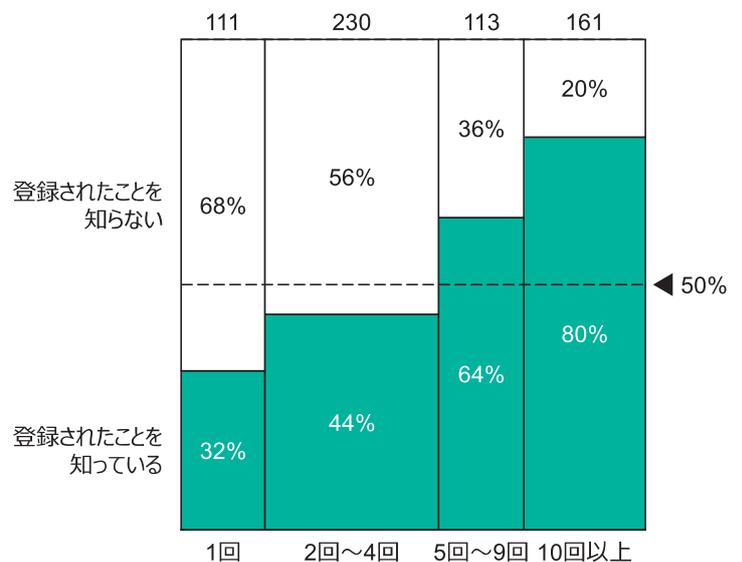
世界自然遺産登録に対する認知度と北部地域訪問経験

n=615
単位：%



世界自然遺産登録に対する認知度と沖縄訪問回数

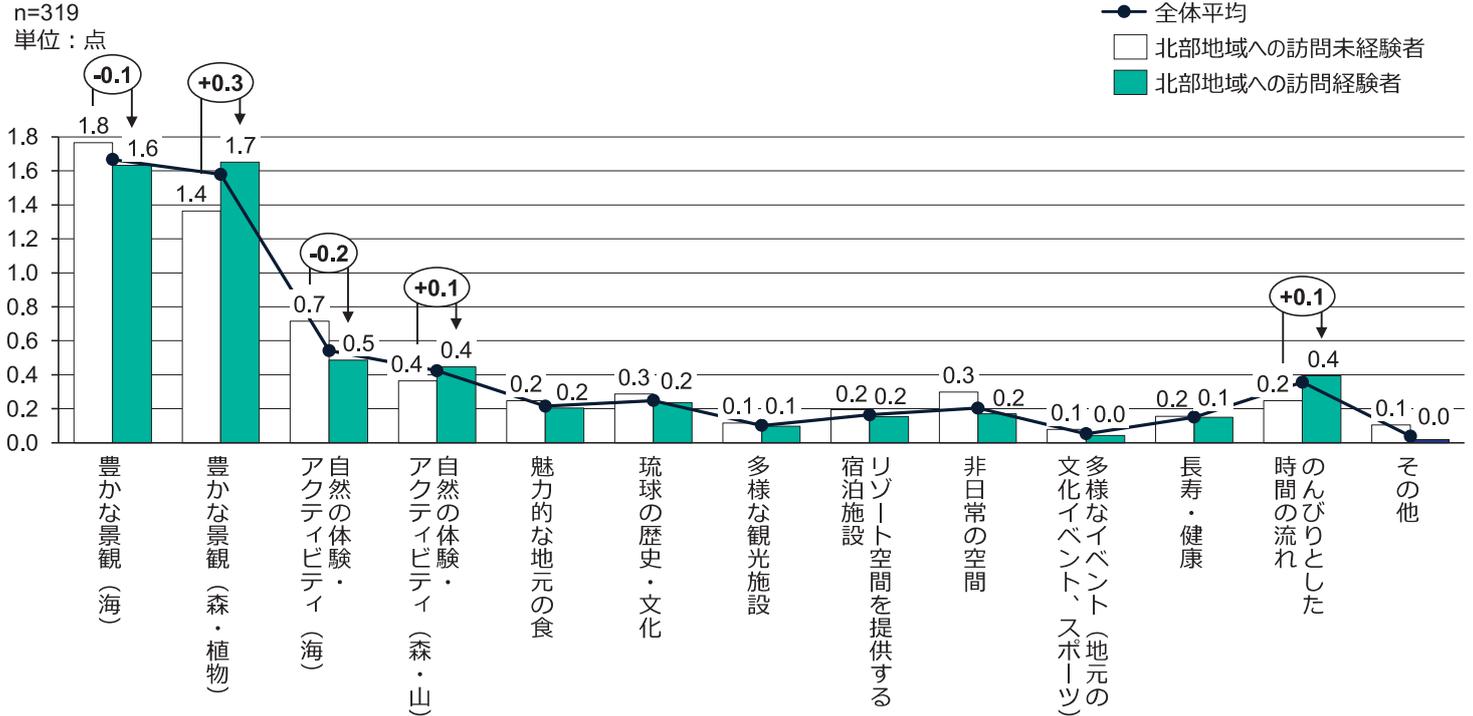
n=615
単位：%



*東京でのアンケートのため、首都圏居住者が9割を超えるアンケート調査
出所：「ツーリズムEXPOアンケート」より分析

やんばる（沖縄北部地域）に対するイメージ

北部地域全体としては「景観」「自然」が代表的なイメージとして認識されている

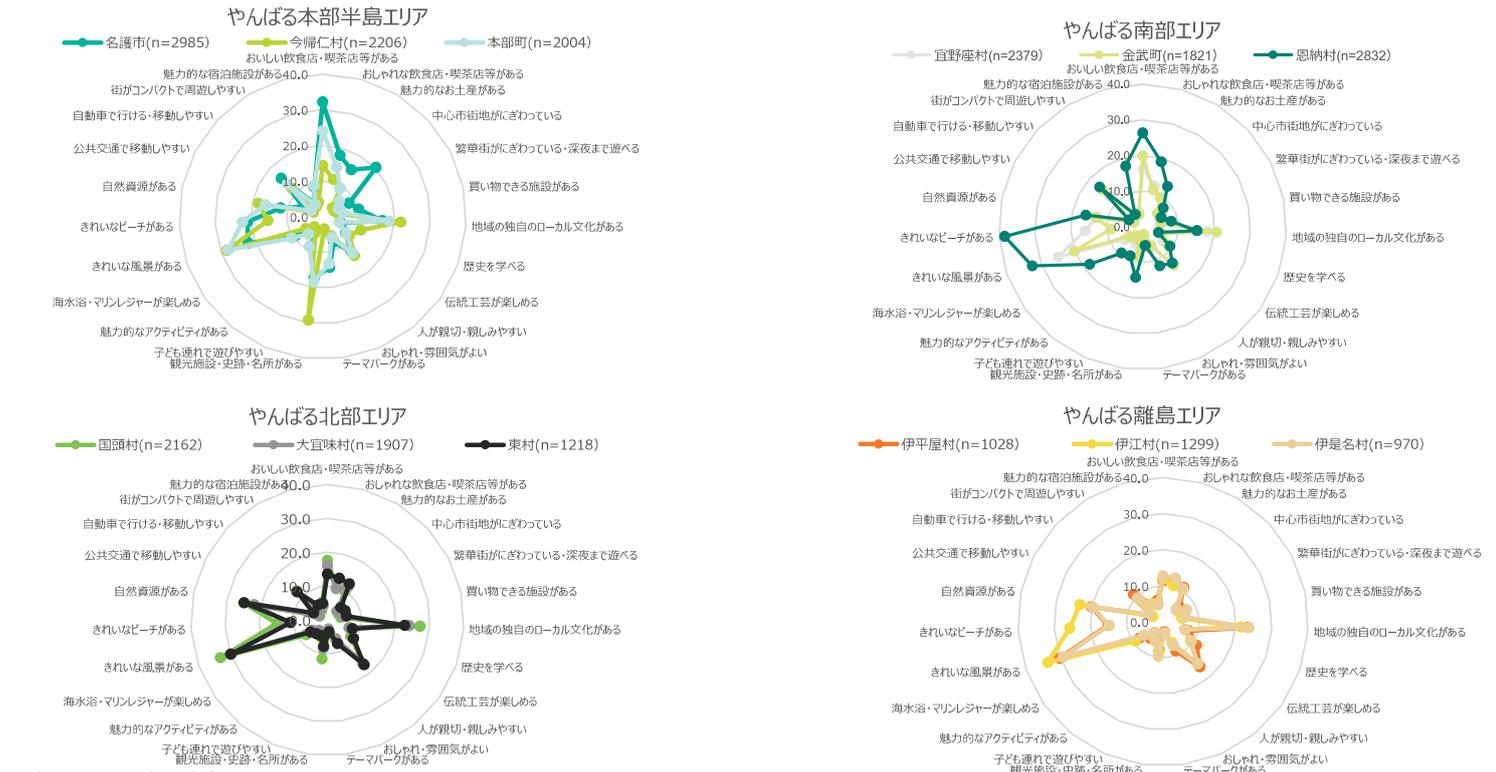


*東京でのアンケートのため、首都圏居住者が9割を超えるアンケート調査

*"1位"として選択されたものを3得点、"2位"として選択されたものを2得点、"3位"として選択されたものを1得点として合計得点を集計した後に回答者の総数で割った数値を算出
出所：「サンシャインタイムンモーレフェスタ（5月24～28日実施）」より分析

沖縄旅行者の持つ各市町村に対するイメージ

各市町村へのイメージでは、ビーチや風景等、共通的なイメージが構築できている面も見受けられるが、それぞれの地域が持つ資源を訴求できていない点も見受けられる

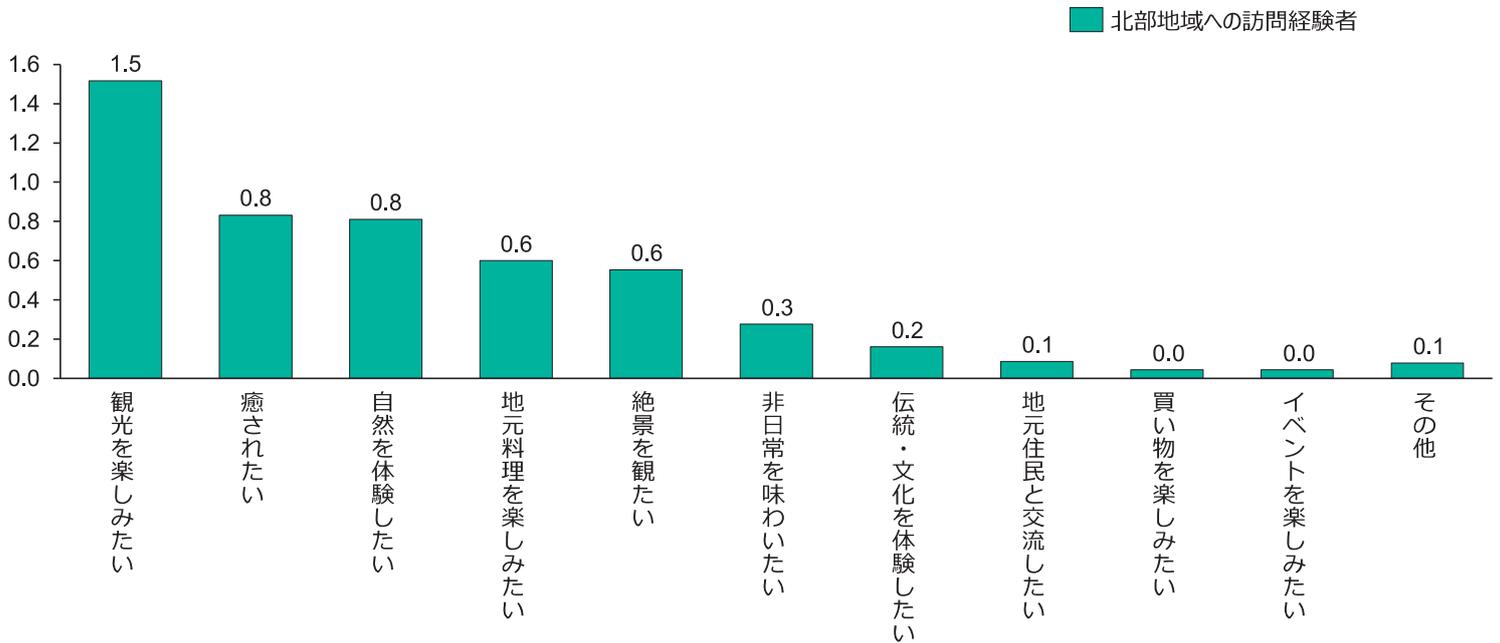


やんばる（沖縄北部地域）への来訪目的

北部地域への訪問経験者は「癒されたい」「自然を体験したい」「絶景を見たい」等、北部地域が有する観光資源が来訪目的につながっている

n=232（1～3位までの複数回答）

単位：点



*東京でのアンケートのため、首都圏居住者が9割を超えるアンケート調査

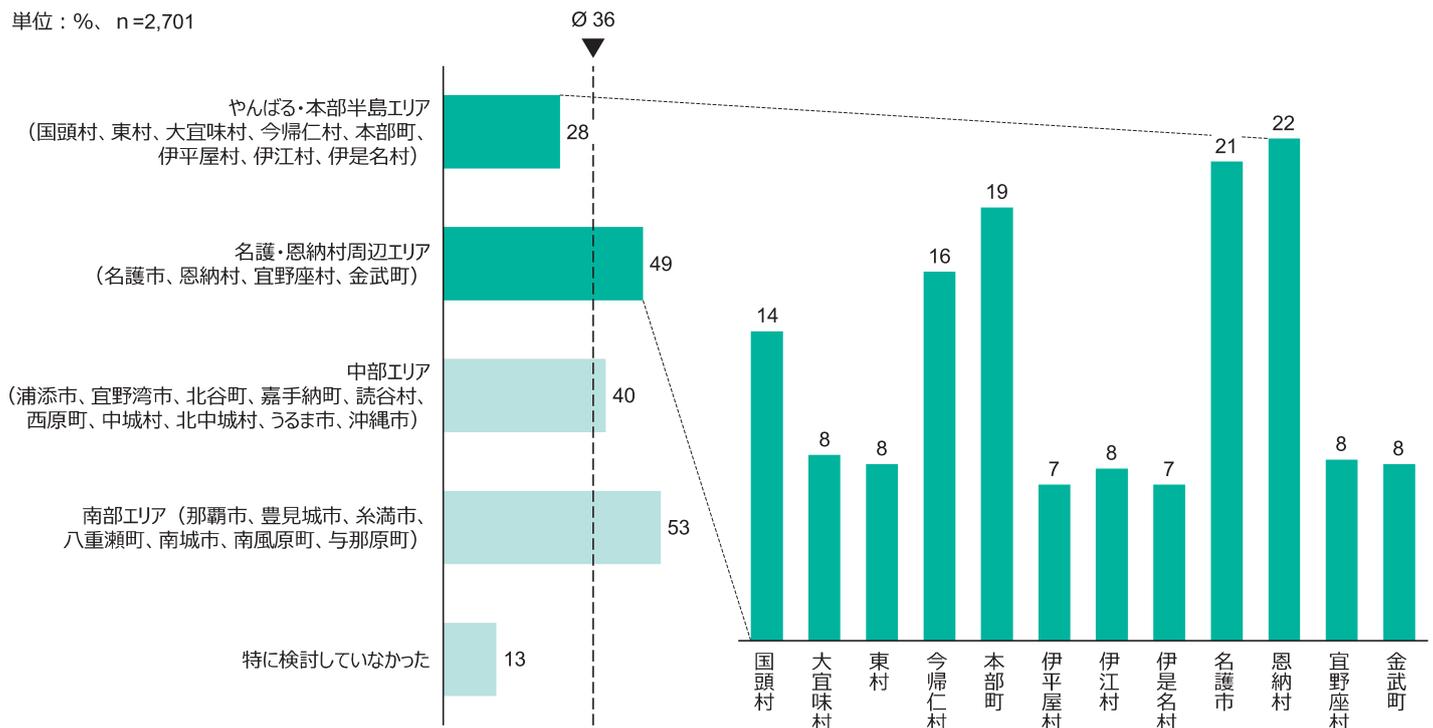
出所：「サンシャインシティめんそーれフェスタ（5月24～28日実施）」より作成

**"1位"として選択されたものを3得点、"2位"として選択されたものを2得点、"3位"として選択されたものを1得点として合計得点を集計した後に回答者の総数で割った数値を算出

沖縄旅行者の旅行検討地域

沖縄県に訪問を検討していた観光客のうち、名護・恩納村周辺エリアを検討していたのは約5割、やんばる本部半島エリアを検討していたのは約3割。そのうち、宿泊施設が集積する恩納村・名護市・本部町を検討していた方が多い

単位：％、n=2,701



出所：アンケート調査より作成

北部12市町村の非訪問理由

北部12市町村を訪れなかった理由としては、“旅行日数”や“距離”といったコントロールができない理由を除くと、“情報があまりなかった”、“訪れる場所がわからなかった”がどの市町村ともに10%以上となっている

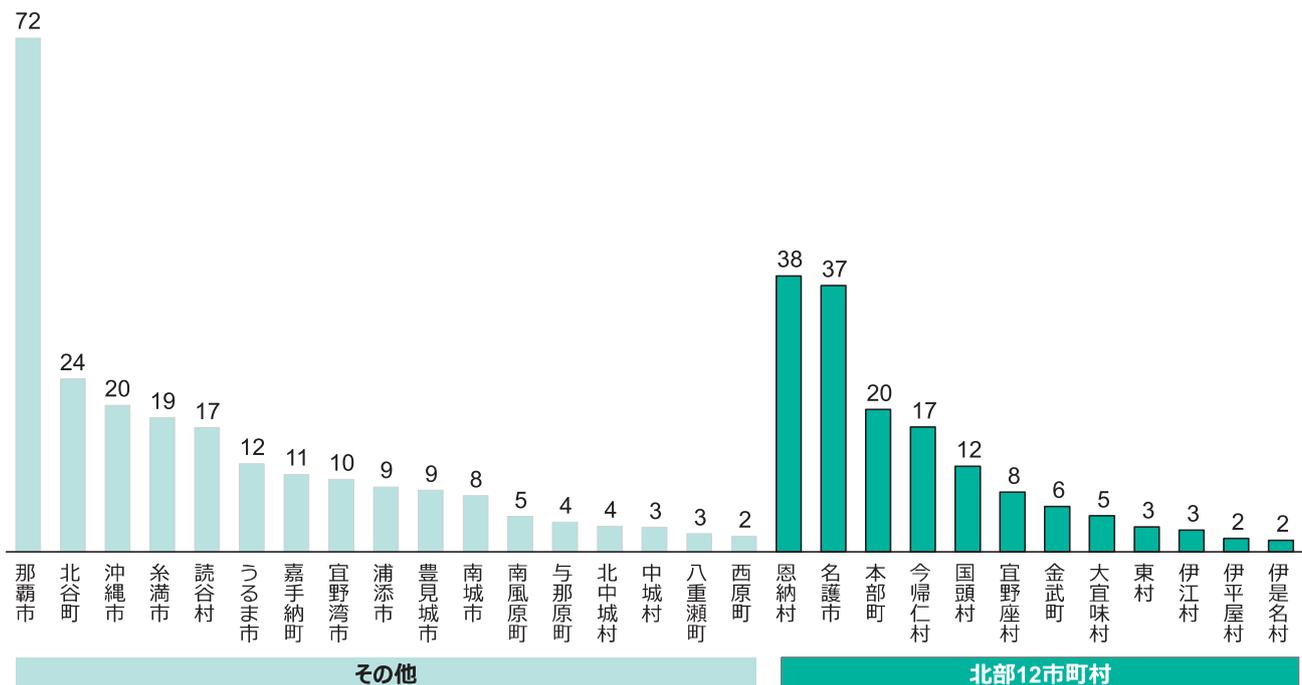
(単位：%)	国頭村 (n=2734)	大宜味村 (n=2949)	東村 (n=2997)	今帰仁村 (n=2565)	本部町 (n=2489)	伊平屋村 (n=3047)	伊江村 (n=3010)	伊是名村 (n=3055)	名護市 (n=1953)	恩納村 (n=1911)	宜野座村 (n=2846)	金武町 (n=2909)
旅行日数が足りなかった	50.4	47.6	45.8	46.7	45.6	45.4	46.1	45.1	49.3	49.7	47.8	45.9
距離が遠かった	23.5	20.2	17.9	17.5	16.2	15.3	16.5	14.7	15	14	12.1	11.1
情報があまりなかった	12.3	13.5	15.3	14.3	14.1	16.7	16.4	17.8	11.2	10.5	13.9	16
訪れるべき場所がわからなかった	10.4	11.3	12.5	10.8	11.6	13.9	12.6	13.7	10.9	10.6	12.6	14
公共交通のアクセスが悪かった	7.4	6.4	6.2	6.8	6.2	6.7	6.9	6.7	6	6.2	5.1	4.6
魅力的な観光地や施設がなかった	6.6	7.7	7.9	5.8	5.4	6.8	6.3	7.2	5.7	5.1	7.5	7.9
公共交通でのアクセスがわからなかった	4.8	4.6	4.3	4.8	5	4.4	4.9	5	4.1	4.3	4	4.1
調べてみたらあまり地域全体が魅力的でなかった	3.8	4.1	4.6	4.1	4.5	4.7	4	4.2	3.5	3.7	4.3	4
天候が良くなかった	2.6	2.2	2.1	2.2	2.2	1.9	2	1.9	2.1	2.6	2.2	2
渋滞等で混雑するのが嫌だった	2.5	3.1	2.4	2.1	3.1	2.3	2.2	2.4	3.6	3.2	2.6	2.8
魅力的な飲食施設がなかった	1.8	2.4	2.7	2.7	2.7	2.5	2.1	2.5	2.5	2.9	2.5	3.2
魅力的な宿泊施設がなかった	1.8	2.3	2.5	2.4	2.7	2.6	2.2	2.7	2.7	2.8	2.7	2.5
魅力的なアクティビティがなかった	1.7	2.2	2.1	2.1	2.3	2.1	2	2.3	1.6	2.6	2.1	3.2
お金がかかりそうだった	0.8	0.7	1.2	1.2	2	1.4	1.7	1.9	2.4	2.7	1.7	1.4

出所：アンケート調査より作成

沖縄旅行者の実際の訪問地域

実際に沖縄旅行を検討した回答者のうち、北部地域に訪問した方は検討時点と同じく恩納村・名護市・本部町に多く訪れている

単位：%、n=3,105

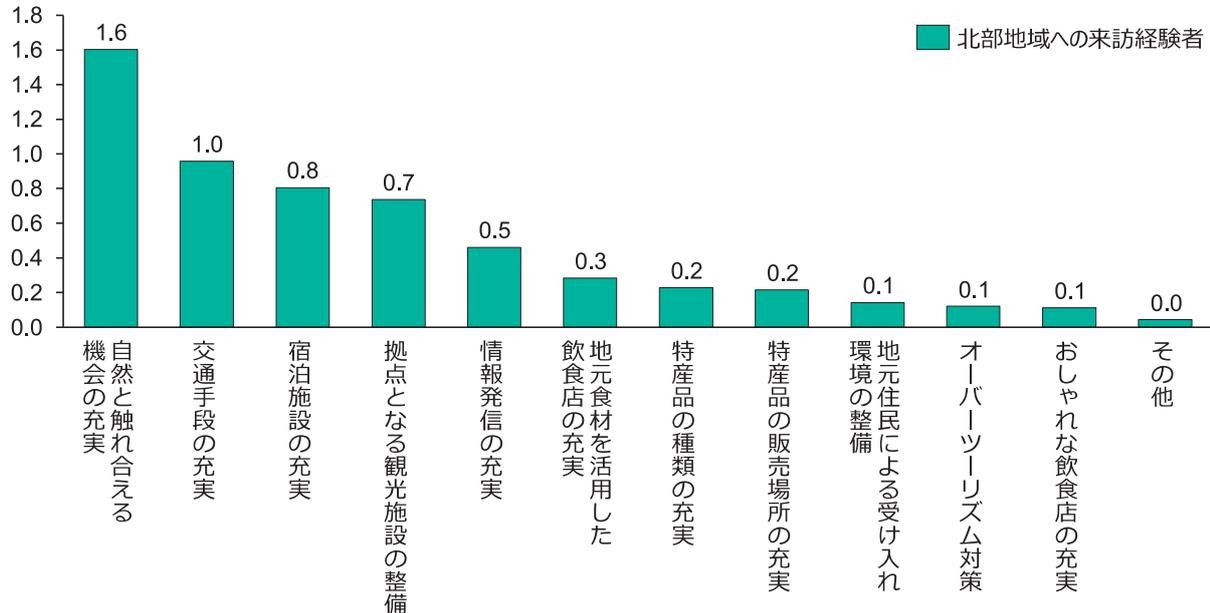


出所：アンケート調査より作成

やんばる（沖縄北部地域）を良い観光地にするために必要な要素

北部地域への訪問経験者からは「交通手段の充実」「拠点となる観光施設の整備」「宿泊施設の充実」などのハード面に関する要望のほかにも、「自然と触れ合える機会の充実」「情報発信の充実」などのソフト面に関する要望の声が多く見られた

n=232 (1~3位までの複数回答)
単位：点



*東京でのアンケートのため、首都圏居住者が9割を超えるアンケート調査
出所：「サンシャインシティめんそーれフェスタ（5月24～28日実施）」より作成
**"1位"として選択されたものを3得点、"2位"として選択されたものを2得点、"3位"として選択されたものを1得点として合計得点を集計した後に回答者の総数で割った数値を算出

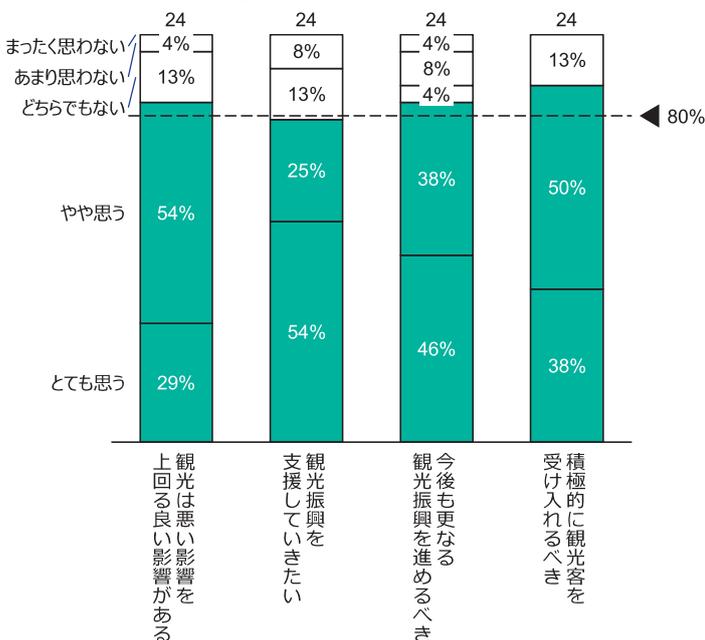
観光振興に対する考え方

アンケートに回答した北部地域の事業者の約8割が観光振興に対して好意的な意見をもっている。また、観光の関わり方として、観光に関わる機会や自社の意見を共有・発信する機会は4割弱、積極的に関わる機会があると回答したのは5割弱となっている

観光振興に対する考え

単位：％、n=24

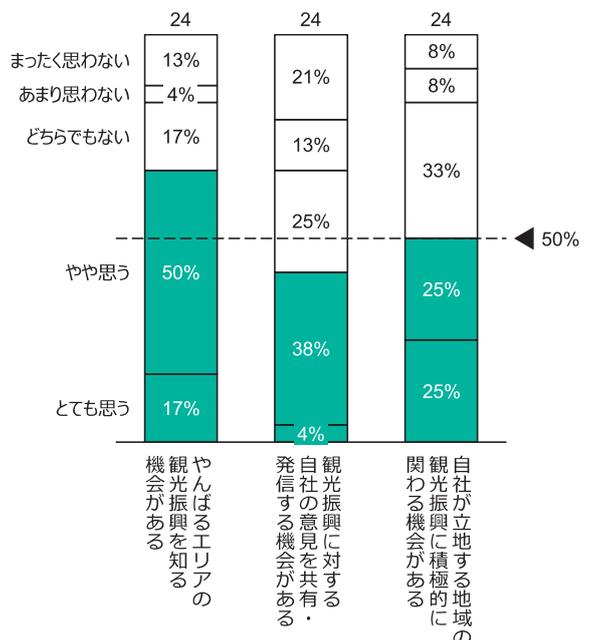
設問：観光振興に対する考えを教えてください。



観光振興への関わり方

単位：％、n=24

設問：貴社の観光振興への関わり方に関する考えを教えてください。（単一選択）



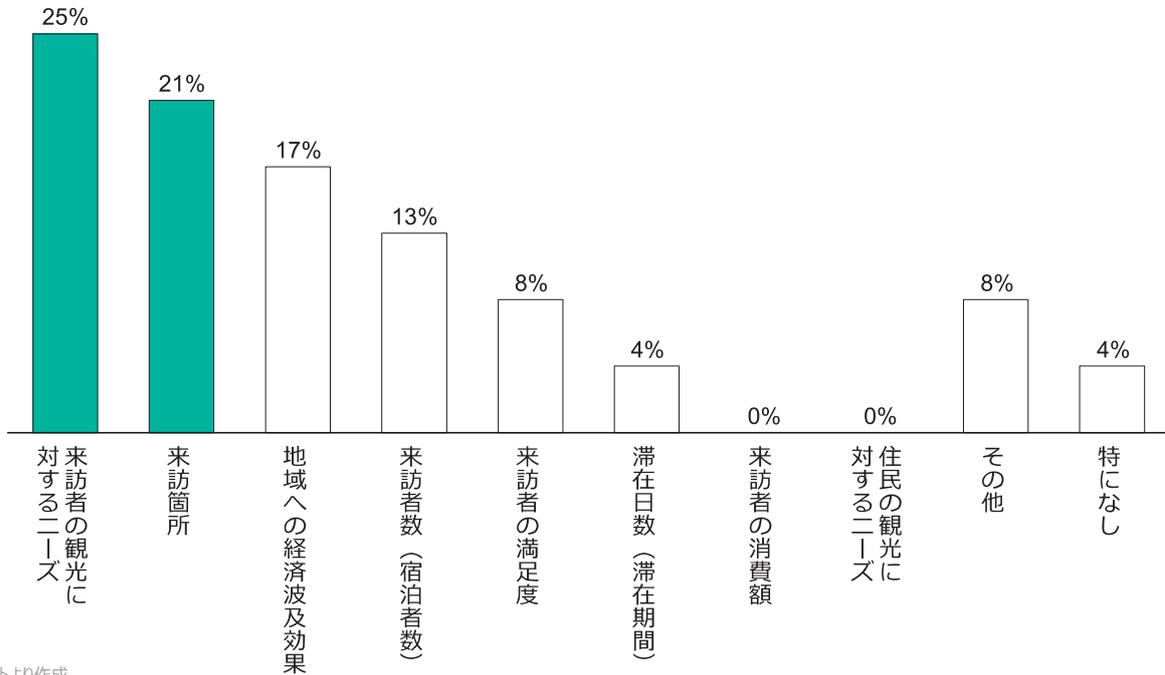
出所：事業者アンケートより作成

事業者が望む観光関連情報

地域事業者が北部地域の観光振興に関して知りたい情報として、「来訪者の観光に対するニーズ」「来訪箇所」「地域への経済波及効果」等のニーズがある

単位：％、n=24

設問：やんばるエリアにおける観光振興の現状を知るため、定期的（年に1回など）に知りたい情報を教えてください（複数選択可）



出所：事業者アンケートより作成

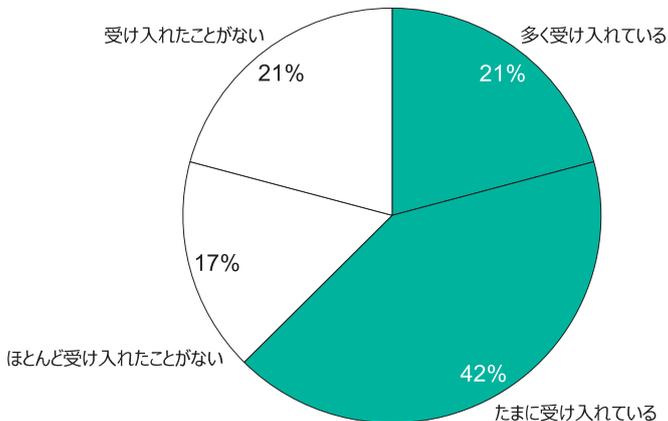
外国人観光客の受入状況

北部地域の事業者アンケートでは、回答者のうち6割以上の事業者が「外国人観光客を受け入れている」と回答。しかし、その受入意向としては約4割は受け入れたくないと回答しており、その理由として人材不足をあげている

外国人観光客の受入状況

単位：％、n=24社

設問：貴社では現状インバウンド（外国人観光客）を受け入れていますか。

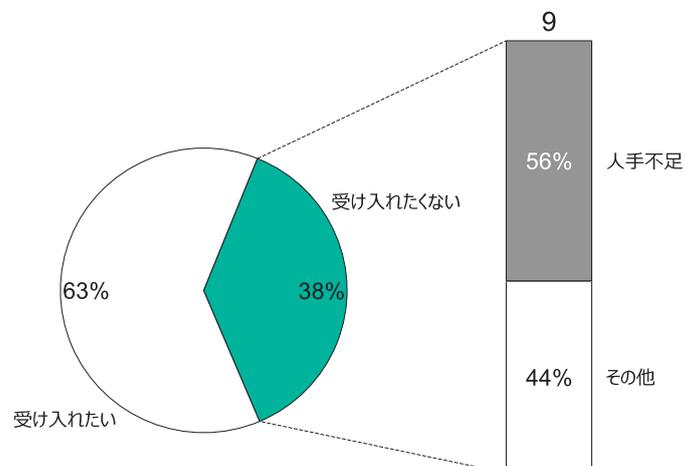


出所：事業者アンケートより作成

外国人観光客の受入意向

単位：％、n=24社

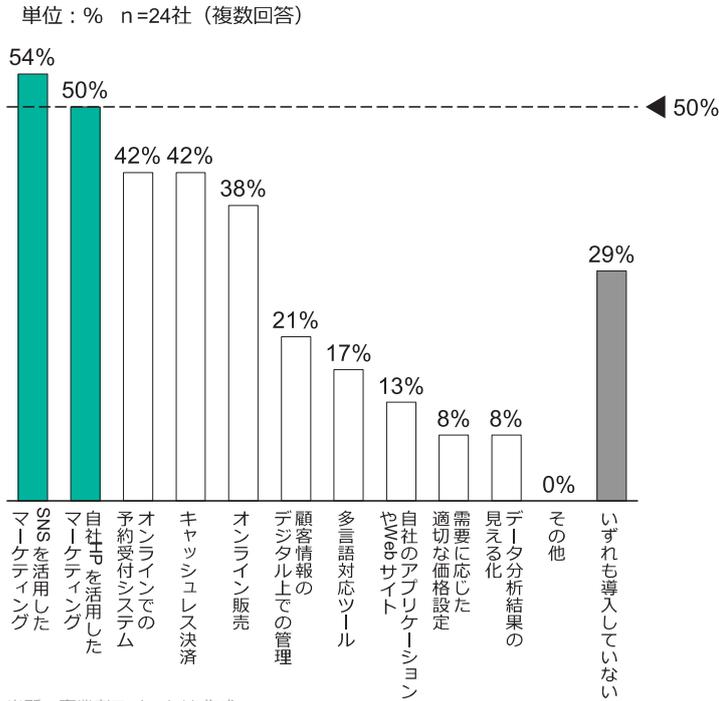
設問：今後、貴社にてインバウンド（外国人観光客）の受け入れを推進したいと考えていますか。「受け入れたくない」と回答した方のみ、そう考えている理由を教えてください。



デジタル活用に関する取組

回答者の7割が「SNSマーケティング」「WEBマーケティング」等のデジタルを活用しているが、まだ3割近くの事業者がデジタル技術の活用ができていない。また、今後利用したいデジタル技術では、「自社HPを活用したマーケティング」「多言語対応ツール」を挙げる事業者が多い

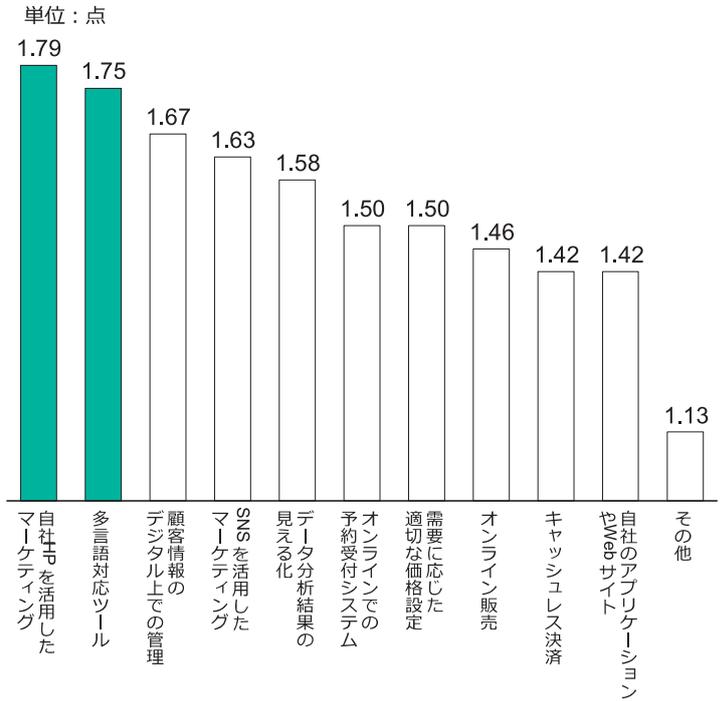
北部地域事業者のデジタル技術の導入状況



出所：事業者アンケートより作成

*一位として選んでいる回答を3、二位として選んでいる回答を2、三位として選んでいる回答を1としてそれぞれ平均値を取り、スコア化

北部地域事業者の望むデジタル技術*



各市町村・観光協会へのワークショップ結果

ワークショップでは地域の観光事業者から「やんばる広域での連携」「観光人材不足」「情報発信不足」に関する声が挙げられた



“地域事業者間で連携し、観光客のやんばる地域内での周遊を促進すべきではないか”

“観光業でも作業効率化が必要だが、それを促進するためのデジタル人材が不足している”
 “自前でデジタル人材を育成するには限界がある”
 “ガイド等の観光関連サービス業の人材が不足している”
 “コロナ以後、観光業に従事しようとする若者が限られている”



“やんばる地域で実施されるイベントの情報発信力が弱い”
 “県内の他市町村との差別化を図った発信ができていないのでは”

出所：地域事業者へのワークショップ調査（令和6年11月5日）より作成

北部12市町村のターゲット比較（個人マーケット）

個人向けにはレジャーに力を入れている点は共通しているものの、各市町村で供給しているコンテンツは異なる。また、自然・文化体験には共通して重きを置く市町村が多いものの、学びやビジネス・休養等、新しいニーズに目を向ける市町村もある

北部12市町村のターゲット(個人)

凡例 共通分野

	レジャー						教育	ビジネス
	観光スポット	自然体験 アウトドア体験	文化体験	食	保養休養	スポーツレ クリエーション		
名護市	まちながエリア一帯	農業漁業 マリン	伝統文化体 験	街中散策・飲食店 泡盛	×	スポーツツー リズム	×	ワーケーション/ 報奨旅行
恩納村	万座毛ビーチ	海洋レジャー 農林水産業	伝統文化体験	海ぶどう収穫/泡盛	×	マリンアクテ ィビティ	体験学習	ワーケーション/ OIST見学ツアー
東村	ヒルギ公園	自然・農業漁業 サイクリング	伝統文化体験	コーヒー園	グランピング	×	農家民泊	エコパーク
今帰仁村	古宇利島	サイクリング 体験滞在型観光	伝統文化体験	泡盛	ウェルネスツー リズム	×	×	×
国頭村	大石林山	自然・農業漁業 サイクリング・キャンプ・ マリン・スズメ民泊	産業歴史文化	×	グランピング	ゴルフ・運動公園	×	×
大宜味村	ター滝	自然・農業・マリン 体験型ツーリズム	まちあるき 伝統工芸	泡盛	ヘルスツーリズム	×	×	×
本部町	美ら海水族館 備瀬のフクギ並木	自然 農業・漁業	まちあるき	泡盛	×	×	×	×
宜野座村	道の駅きのぞき	自然・景観 いちご狩り	伝統文化芸 能	×	ウェルネスツー リズム	スポーツツー リズム	平和学習	ワーケーション
金武町	新開地	自然・景観 (ネイチャー・みらい 館)	文化施設	泡盛	ウェルネスツー リズム	スポーツツー リズム	民泊・農泊	×
伊平屋村	クマヤ洞窟	自然・風景 農業漁業森林	文化施設	泡盛	×	×	体験学習	ワーケーション
伊江村	城山、GIビーチ	アウトドア マリン・花	伝統芸能 ローカル文化	泡盛・ラム酒	×	マリンアクテ ィビティ	学びツーリズム (平和・文化学習)	×
伊是名村	ギタラ展望台	農林水産業 アウトドア・マリン	祭り・イベント 伝統文化・歴史	泡盛	×	×	教育旅行	企業研修

出所：各市町村観光振興計画、各市町村ウェブサイト、やんばる観光地域づくり戦略策定事業基礎調査業務報告書等より作成

北部12市町村のターゲット比較（団体マーケット）

団体向けは、競技スポーツと教育にはほぼ全ての市町村が注力している。一方で、団体向けレジャーやビジネスも新しく視野に入れている市町村もある

北部12市町村のターゲット(団体)

	レジャー	競技 スポーツ	教育	ビジネス
名護市	アウトドア合宿	合宿・スポーツコンベンション	修学旅行(民泊) インターン	ビジネス MICE
恩納村	ウェディング	合宿(Jリーグ・大学野球)	修学旅行(民泊)	×
東村	×	×	修学旅行(民泊、自然体験)	×
今帰仁村	×	スポーツコンベンション	修学旅行(民泊)	法人向けの福利厚生・研修
国頭村	×	プロキャンプ・高校野球合宿	修学旅行(民泊)	×
大宜味村	×	×	修学旅行(民泊、自然体験)	×
本部町	×	合宿	修学旅行(民泊)	×
宜野座村	多様な合宿	タイガースキャンプ・合宿	修学旅行(民泊)	×
金武町	×	合宿・キャンプ	修学旅行(民泊)	×
伊平屋村	×	大会(マラソン)	修学旅行(民泊)	×
伊江村	×	合宿(クラブ・サークル・プロ)・大会	修学旅行(民泊)	×
伊是名村	×	×	修学旅行(民泊)	×

一部注力されている

共通して注力されている

一部注力されている

出所：各市町村観光振興計画、各市町村ウェブサイト、やんばる観光地域づくり戦略策定事業基礎調査業務報告書より作成

各市町村・観光協会へのヒアリング結果 (1/3)

各市町村・観光協会からは、やんばる地域全体の課題としてやんばる一体でのマーケティング・ブランディングを進めるべきとの要望があった



“「やんばる」の地域名称としての認知度が低く、情報を発信しても、「やんばる」がどの場所を指すのか観光客に伝わっていない”

“観光動向に関するデータ分析を地域全体で取りまとめることができれば、各観光協会は自分の地域に特化したブランディングができる”
“データに基づき誰をターゲットにしてマーケティング・ブランディングしていくべきか検討すべき”



“長期滞在してくれ、自然を愛し、ゆっくりと過ごしている欧米の方々に来てほしい”
“東アジアは確保すべきだと考えている。単価の高いインバウンドや、もっと中東や欧米層までいけるのであれば良い”

出所：自治体および観光協会ヒアリング調査より作成

各市町村・観光協会へのヒアリング結果 (2/3)

各市町村・観光協会からは、大型テーマパーク施設の開業に伴う交通需要の高まりによる交通渋滞や、クルーズの需要回復による観光客の地域内周遊促進の観点から、観光交通を課題に挙げて対策を進めるべきだとの要望があった



“大型テーマパーク開業後に交通渋滞問題が発生することを考えると、渋滞を回避するルートを検討する必要があるのでは”

“クルーズ需要の回復や大型テーマパーク開業を踏まえると、一番の課題は二次交通ではないか。二次交通を単独市町村でやろうとするとできない。また、路線バスとかち合ってしまう等の課題が生じる”



“観光客を地域全体に流動させるためにも周遊バスについてはぜひ取り組んでもらいたい”
“大型テーマパーク施設ができて、移動手段が整備されていなければ、そこに人が集中し他地域へ行くことはならないのではないか”

出所：自治体および観光協会ヒアリング調査より作成

各市町村・観光協会へのヒアリング結果 (3/3)

過度な観光振興にならないためにも、自然保護・地域住民の生活維持に関する要望があった。一方で、観光地として発展・経済活性化に関する要望もあり、地域内で相反する要望もあった

自然保護・地域住民の生活維持に関する要望

“自然をしっかり保全できるような活動をしなが
ら、観光客がお金を落としてくれたらいい”

“局地的に観光客が集中している場所もあるため、地域全体への周遊を促進すべきではないか”

“観光客にマナーを守ってほしい”
“観光客の誘客を進めすぎると、徐々に地域の古きよき生活が損なわれるため、バランスをとる必要がある”

出所：自治体および観光協会ヒアリング調査より作成

観光地としての発展・経済活性化する要望

“観光振興により経済的観点から地域住民が潤うことも重要”

“多くの観光客に地域に来てほしい”

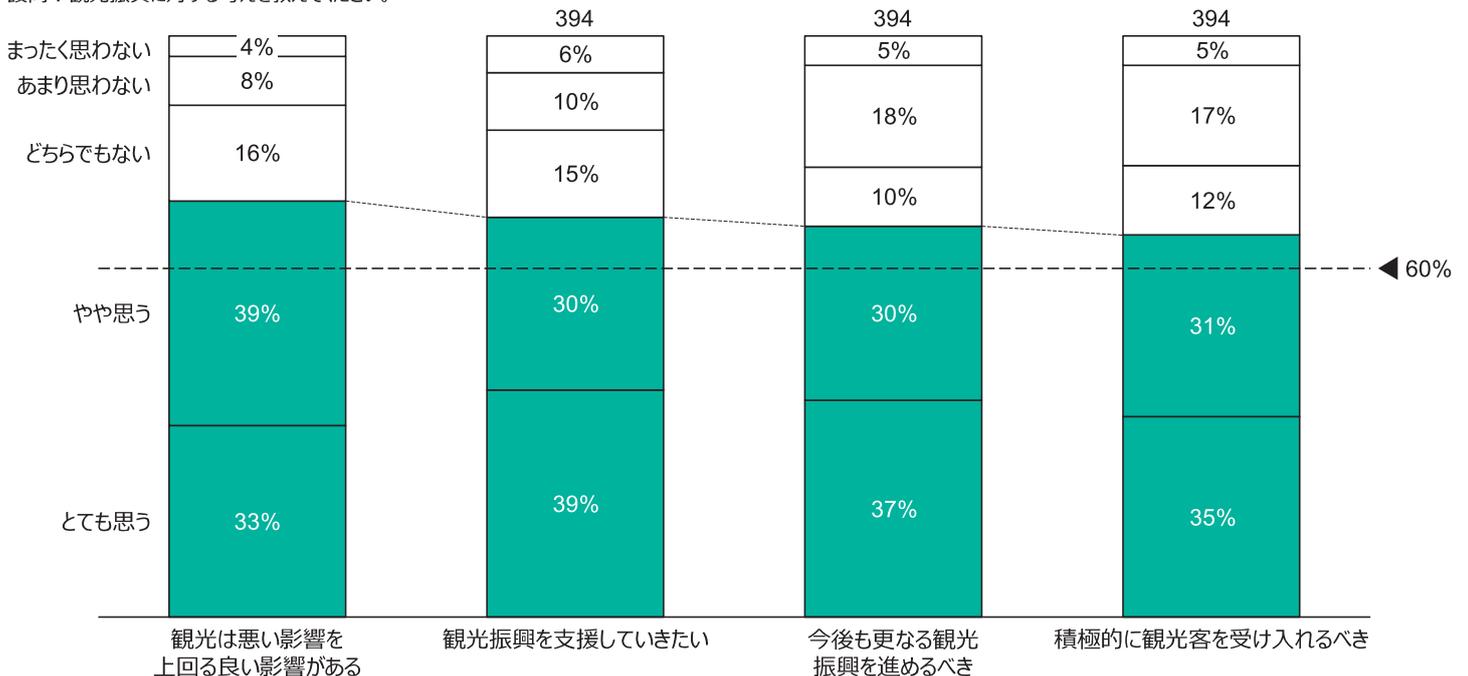
“観光振興の恩恵が地域事業者に裨益するよう観光振興を進めてほしい”

観光振興に対する考え方 (全体)

やんばるエリアの地域住民の観光振興に対する考え方では、全体的に肯定的な意見が挙げられた

単位：%

設問：観光振興に対する考えを教えてください。



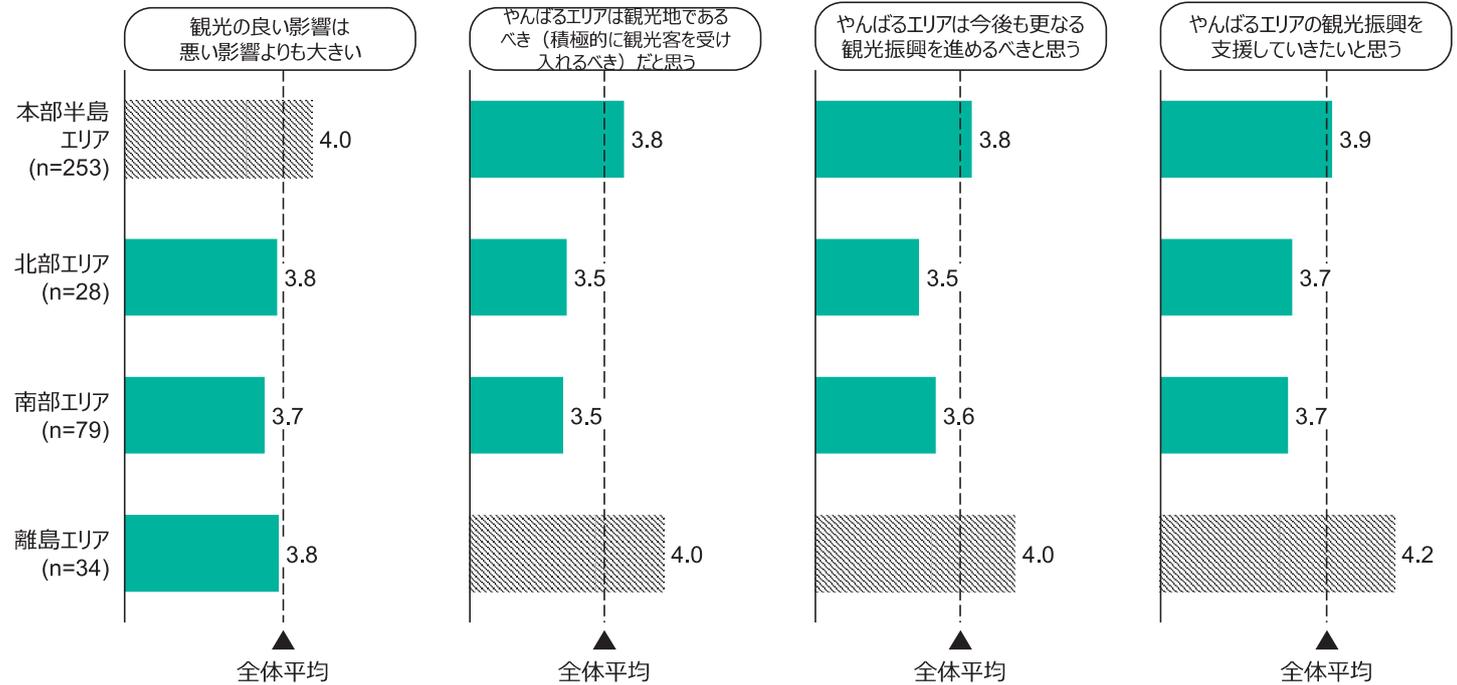
*出所：住民アンケートより作成

観光振興に対する考え方（地域別）

地域別で見た場合は、観光振興に対して好意的にとらえているが、地域によって差がある

単位：％

設問：観光振興に対する考えを教えてください。



*「とても思う」を5、「やや思う」を4、「どちらでもない」を3、「あまり思わない」を2、「まったく思わない」を1として集計
出所：住民アンケートより作成

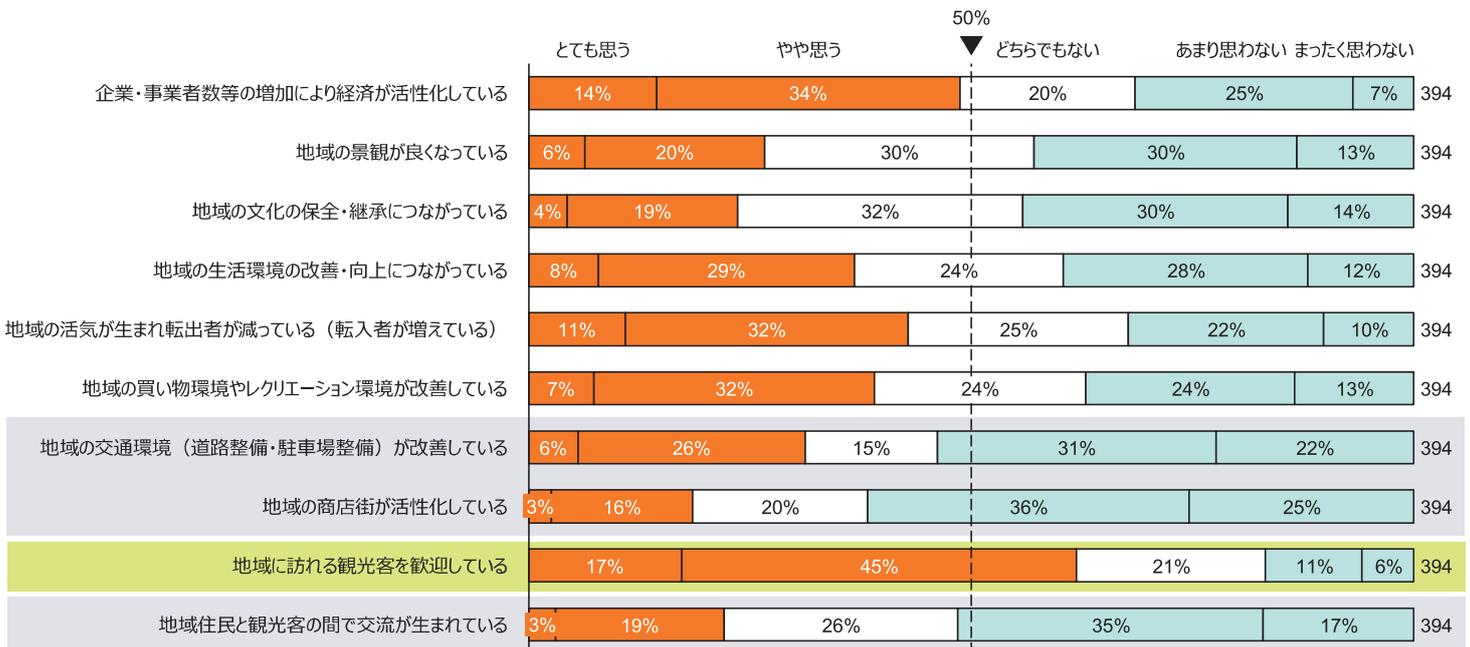
観光振興が地域へもたらす影響

観光振興が地域へもたらしている影響に関し、「観光客が地域を訪れることを歓迎する」割合が半数以上になっている等、全体的にポジティブな回答となっている。一方で、「地域の交通環境の改善」「地域商店街の活性化」についてネガティブな回答もある

単位：％（n=394）

凡例 好意的な回答 否定的な回答

設問：お住まいの地域（以下、地域）において、観光振興が地域へもたらしている影響について現時点での考えを教えてください。



*ポジティブは「とても思う」「やや思う」が半数以上、ネガティブは「あまり思わない」「まったく思わない」が半数以上を抽出
出所：住民アンケートより作成

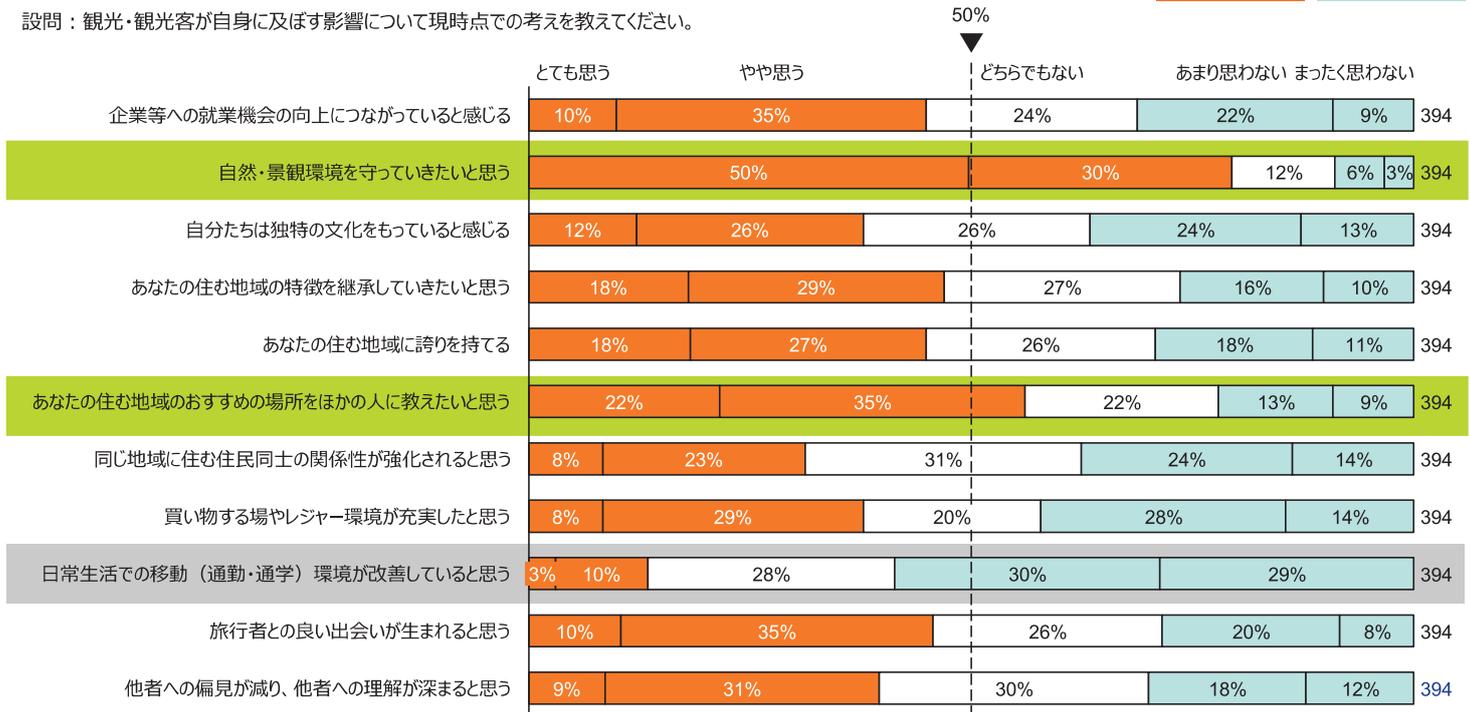
観光・観光客に対する自身の考え

観光・観光客に対する住民各個人の考えとして、全体的にポジティブな意見を持っている。一方で、「日常生活での移動（通勤・通学）環境が改善している」に対してネガティブな意見もある

単位：％（n=394）

設問：観光・観光客が自身に及ぼす影響について現時点での考えを教えてください。

凡例 好意的な回答 否定的な回答



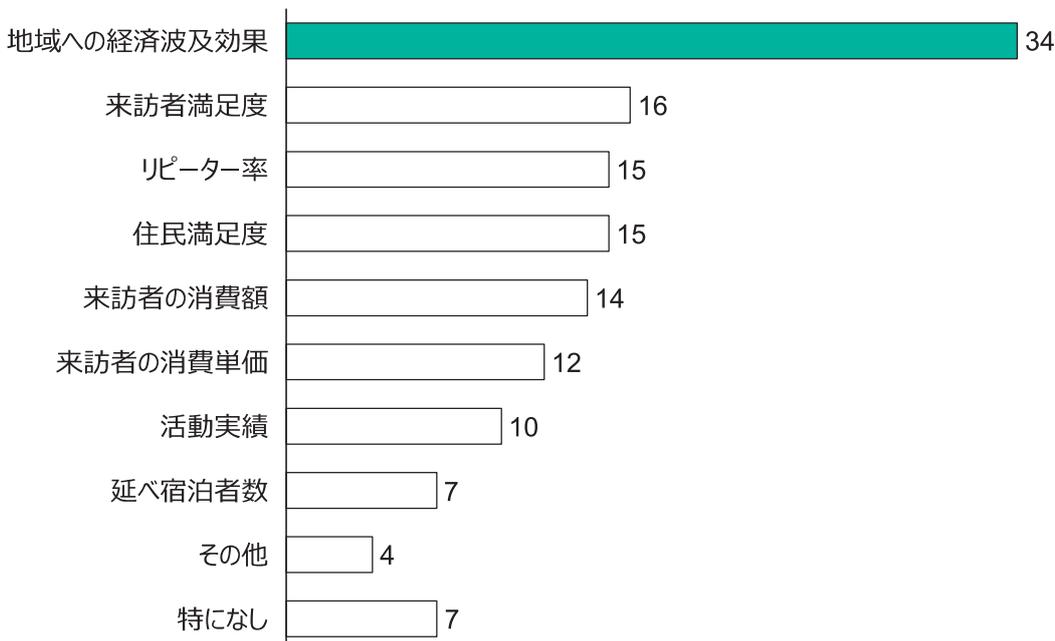
*ポジティブは「とても思う」「やや思う」が半数以上、ネガティブは「あまり思わない」「まったく思わない」が半数以上を抽出
出所：住民アンケートより作成

住民が望む観光関連情報

観光振興に係る情報として、「地域への経済波及効果」を知りたいという声が34%と最も多い

単位：％

設問：北部12市町村における観光振興の現状を知るため、定期的（年に1回など）に知りたい情報を教えてください。（複数選択可）



出所：住民アンケートより作成